

令和3年度使用

義務教育諸学校（中学校）の教科用図書
（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）
研 究 資 料

令和2年6月

岡山県教育委員会

目次

教	科	種	目	
1	国	語	国	語..... 1
2	国	語	書	写..... 7
3	社	会	地理的分野 1 3
4	社	会	歴史的分野 1 9
5	社	会	公民的分野 2 7
6	社	会	地	図..... 3 5
7	数	学	数	学..... 3 9
8	理	科	理	科..... 4 7
9	音	楽	一	般..... 5 3
10	音	楽	器	楽 合 奏..... 5 7
11	美	術	美	術..... 6 1
12	保	健	体	育..... 6 7
13	技	術	・	家庭 技 術 分 野..... 7 3
14	技	術	・	家庭 家 庭 分 野..... 7 9
15	外	国	語	英 語..... 8 5
16	道	徳	道	徳..... 9 3

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

1

教科 国語

種目 国語

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい国語 1	1	B 5	3 4 2
		新しい国語 2	2	B 5	3 4 6
		新しい国語 2	3	B 5	3 5 4
15	三省堂	現代の国語 1	1	B 5	3 5 7
		現代の国語 2	2	B 5	3 5 7
		現代の国語 3	3	B 5	3 4 1
17	教出	伝え合う言葉 中学国語 1	1	B 5	3 5 4
		伝え合う言葉 中学国語 2	2	B 5	3 6 6
		伝え合う言葉 中学国語 3	3	B 5	3 5 4
38	光村	国語 1	1	B 5	3 4 0
		国語 2	2	B 5	3 3 6
		国語 3	3	B 5	3 2 4

種目名 (国語)

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい国語
<p>(1)</p> <p>内 容 の 特 徴 ・ 表 現</p>	<p>① 国語で正確に理解し適切に表現することに向けて、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 様々な学習場面や実生活に生かすことのできる国語の能力を育成するために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な言語文化や言葉の由来や変化等について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 巻頭にこれまでの学年で「学んだこと」の内容が示されている。単元ごとの学習内容とその目標が「言葉の力」として示され、巻末に3学年分の「言葉の力一覧」として示されている。また、資料編では「言葉を広げよう」として様々な表現の用例が紹介されている。</p> <p>② 「学びの扉」で、学習のポイントが漫画で示され、巻末の「学びを支える言葉の力」で具体的に説明されている。「読むこと」の教材では、「てびき」で課題が示され、「たすけ」で学習のヒントが示されている。情報活用能力の育成のために「言葉とメディア」の単元が設けられている。</p> <p>③ 「読書への招待」の教材と同テーマの本が、「読み比べよう」「読み広げよう」で紹介されている。巻末の資料編に、発展的な教材が紹介されており、本編の関連する教材とつなげて取り上げられている。また、第3学年資料編には、「発展」として、「古典の文法」が取り上げられている。</p> <p>④ 「学びを支える言葉の力」の「つながる・広がる」の項目で、実生活での活用例が示されている。他教科との関連が、下段に「つながり」のマークで示されている。全学年「他教科で学ぶ漢字」が取り上げられている。第3学年の「将来の目標や計画を立てよう」で進路学習の内容が設定されている。</p> <p>⑤ 我が国の言語文化と関わりをもつ漢文への興味を喚起するため、第1学年で、「矛盾」の原文が記載されている。また、伝統的な言語文化の理解や古典には様々な種類の作品があることを知るために、第1学年の古典学習では、複数の教材が取り上げられている。</p>
<p>(2)</p> <p>構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 学習の案内役に独自の生徒キャラクターを設定・使用し、学びの視点を補助的に示す役割をもたせている。また、学習に関連する音声や映像などの資料がインターネットで見られる箇所が「Dマーク」として掲載されるとともに、その一覧が巻末で紹介されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	15 三省堂 現代の国語
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 国語で正確に理解し適切に表現することに向けて、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 様々な学習場面や実生活に生かすことのできる国語の能力を育成するために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な言語文化や言葉の由来や変化等について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 本編の6～8箇所にわたる「読み方を学ぼう」では読むための方法が具体的に示されている。また、巻末の折り込みページで「読み方を学ぼう」の一覧が取り上げられている。資料編「学習用語辞典」では、学習活動に関する用語と意味がまとめて掲載されている。</p> <p>② 「読むこと」の教材では「学びの道しるべ」に、考えを広げたり深めたりする学習活動と思考のヒントが「思考の方法」として示されている。全学年に「情報に関係づける」の単元が設けられ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の能力を総合的に活用する学習活動が示されている。</p> <p>③ 「学びを広げる」で発展的な学習活動が具体的に取り上げられ、次の学習活動や自主的な活動へのつながりが示されている。第2・3学年の「コラム」で、清少納言の和歌など発展的な内容が掲載されている。「私の読書体験」として、作家の読書体験が紹介され、読書の効用が示されている。</p> <p>④ 「社会生活に生かす」では、メモの取り方など実生活で役立つ資料が示されている。「書く」の学習でも、投稿文、ポスター、リーフレットなど、今後の生活につながる題材が示されている。「うたの言葉」では、さくら（独唱）など、身近な楽曲の歌詞が取り上げられている。</p> <p>⑤ 巻末の資料編で、「日本文学名作集」が掲載され、各時代・ジャンルにわたり、伝統的な言語文化に関わる作品が紹介されている。また、「古典芸能に親しむ」では、落語や能・狂言、歌舞伎などの伝統文化について、上演の様子や舞台、劇場の写真が掲載されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 巻頭に教科書の使い方が見開きでまとめられ、その視点が「確かな言葉の力を身につけるために」として示されている。本誌を開くとき、本編と資料編が横から見ても分かるように、インデックスとして色を区別している。二次元コードで示したリンク先は、参考となる図解が掲載されている。</p>

17 教出 伝え合う言葉 中学国語	38 光村 国語
<p>① 巻頭の「言葉の地図」では教材ごとに身につけたい力とそれに対応する言語活動例が示されている。各教材冒頭の「学びナビ」と「ここが大事」で学習への構えや学習の視点が示されている。巻末の折り込みには「理解に役立つ言葉」「表現に役立つ言葉」の一覧が示されている。</p> <p>② 「学びのチャレンジ」として、様々なジャンルの文章や図・グラフなどの資料が取り上げられ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の能力を総合的に活用して解く問題の単元が設けられている。情報活用能力を育成する教材として、「メディアと表現」の単元が設けられている。</p> <p>③ 巻末の「言葉の自習室」には、読書教材、古典の別の章段、百人一首、十二支と月の異名などが示されている。「読書への招待」で芥川龍之介などの文豪の作品が取り上げられ、発展的な詳しい資料が掲載されている。第3学年の巻末資料で「古典文法活用表」が「発展」として紹介されている。</p> <p>④ 全学年に「総合 (SDG s)」という単元があり、「人権、多様性、平和」などの今日的な課題について深く考え、自分の考えを意見文として書く、話し合うという活動が設定されている。「学びを生かそう」で、学んだことを他教科や日常生活で生かすよう、具体的な場面が示されている。</p> <p>⑤ 巻末に「ふるさとを巡る」として、都道府県ごとに文学にゆかりのある地が取り上げられている。方言と共通語に関しては、第1学年で巻末の資料で取り上げられ、その歴史や新しく生まれた方言、地域や世代による方言の違いなどの内容が紹介されている。</p>	<p>① 巻頭の「学習の見通しをもとう」では教材ごとに身につけたい力が示されている。また、「思考の地図」の折り込みページで様々な思考法が紹介されている。「読むこと」の学習のための観点が各教材末の「学習の窓」に示され、巻末の「学習を広げる」編の「学習の窓一覧」にまとめられている。</p> <p>② 情報活用能力の育成のために、各学年に「情報社会を生きる」の単元と「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」の教材が取り上げられている。巻末の資料に「情報と情報の関係」「情報整理の方法」として、情報の扱い方が一覧でまとめられている。</p> <p>③ 巻末の「学習を振り返ろう」では、「読む」「話す・聞く」「書く」の領域別に、「問題に取り組み、身につけた力を確認する」という発展問題が掲載されている。「読書」では、本の一部を紹介した後、「続きはこちら」という紹介コーナーにより、読書を促すように構成されている。</p> <p>④ 言語活動の最後に「つなぐ」が設けられ、「日常生活・学校生活・将来」という内容項目で、活用場面が具体的に示されている。実生活につなげるために、第3学年では、広告、取扱説明書、パンフレットなどの、実用的な文章を読んで生活に生かすという活動が設定されている。</p> <p>⑤ 古典の学習では、全学年「音読を楽しもう」が設けられている。第1学年では、初めに「いろは歌」が取り上げられている。また「古典の世界」として、現代につながる古典作品の歴史が、中国の古典作品も含めた年表として掲載され、3年間の見通しが示されている。</p>
<p>① 第1～3学年の総ページ数が1044ページとなっている。読み方、学び方の説明、参考となる資料・写真が多く掲載されている。「学びリンク」として、学習の参考となる資料の二次元バーコードが示され、関連するページ番号の横にマークが記載されている。</p>	<p>① 全学年、表紙裏には詩の背景を含め4ページにわたり、風景写真が掲載されている。巻末のページには、時や色、季節を表す伝統的な言葉が取り上げられている。教材などの学習を進める上で、参考となる資料の二次元コードが、関連する箇所に載せられている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

2

教科 国語

種目 書写

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい書写 一・二・三年	1-3	A B	1 4 6
15	三省堂	現代の書写 一・二・三	1-3	B 5	1 3 0
17	教出	中学書写	1-3	A B	1 4 6
38	光村	中学書写 一・二・三年	1-3	B 5	1 5 8

種目名 (書写)

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい書写一・二・三年
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 字形を整え、文字の大きさや配列を理解して楷書を書くこと、行書の基礎的な書き方等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 目的に応じた書き方等、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 様々な学習活動や実生活に生かすことのできる書写の能力を育成するために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の様々な場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な文字文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各単元における学ぶ内容を明確にし、ねらいを焦点化し、文字を正しく整えて速く書くための知識技能を系統的に記した「書写のかぎ」が示されている。単元間に既習事項を確認する「まとめ」の頁や「書写テスト」が設定されている。</p> <p>② 日常生活の中で、自ら考え、判断し、表現することができるように、基本単元の後に「生活に広げよう」という活用単元が配置されている。活用単元では、知識技能を活用するための手順や話し合いの内容が示されている。</p> <p>③ 巻頭の「書写で学ぶこと」では、自分の文字をよりよくしようという態度を養うために、見開きページで書写学習の意義が示されている。自ら進んで学ぶことができる単元で、「書写活用ブック」の該当ページが示されている。</p> <p>④ 「行事の案内状」や「本のポップ」など、他教科等で生かされる内容を強調するため、マークが付されている。「職場訪問の手紙」や「防災訓練のパンフレット」など、キャリア教育や防災・安全教育など現代的な課題に対応した題材が示されている。</p> <p>⑤ コラム「文字のいずみ」では、文字の歴史や用具、手書き文字など伝統的なものから現代に生きるものまで、幅広く示されている。巻末には、日本の文字文化と世界の文字文化についてのコラムが紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 左利きの生徒への配慮として、教材文字が縦書きに配置されている。毛筆における基本単元では、混乱することなく学習に取り組めるように、学習用語が同じ位置に固定して配置されている。</p>

種目名 (書写)

項目	観 点 の 具 体	15 三省堂 現代の書写一・二・三
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 字形を整え、文字の大きさや配列を理解して楷書を書くこと、行書の基礎的な書き方等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 目的に応じた書き方等、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 様々な学習活動や実生活に生かすことのできる書写の能力を育成するために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の様々な場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の伝統的な文字文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際理解や協調に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 学習内容の定着を図るために、「書いて身に付けよう」という書き込みページが設定されている。基本的な内容を押えやすくするために、毛筆と硬筆を書く際の姿勢や持ち方などが動画で見られるように、二次元コードが付されている。</p> <p>② 各学年に一単元ずつ「やってみよう」という今までに学んだことを活用して課題解決を行う言語活動が設定されている。「学習の流れ」に、「身に付けよう、考えよう」という知識技能を活用して、自ら考える学習過程が示されている。</p> <p>③ どこに気を付けて、どのように書けばよいか「書き方を学ぼう」で具体的な字形例とともに示されている。また、巻末で「書き方を学ぼう」が一覧でまとめられ、楷書と行書の特徴が分かるよう折り込みページで示されている。</p> <p>④ 国語科の作品や言語活動と関連付けた教材が複数示されている。3年の教材では、「篆刻」や「書の古典」など、高等学校芸術科書道と関連する内容が紹介されている。資料編には、日常の書式として「送り状」「のし袋」「時候の挨拶」が紹介されている。</p> <p>⑤ 「文字文化の豊かさ」の単元では、文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くために、文字の役割や歴史、文化などが示されている。手書きの良さや職業観を養えるように、文字に関わる職業人のインタビューが紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 見通しをもって学習するために、各教材が見開きで構成され、学習目標と振り返りが一目で確認できるように示されている。学習内容の理解を支えるために、学習をサポートするキャラクターや挿絵や図版が配置されている。</p>

17 教出 中学書写	38 光村 中学書写一・二・三年
<p>① 3年間の学習を確認し、既習事項を振り返る「書写テスト」が示されている。各単元のまとめとして、学習内容を確認するための「振り返ろう」が設けられている。毛筆の単元では、筆圧の違いについて図を用いて視覚化されている。</p> <p>② 学習したことを他の教科等で活用できるようにノートの書き方が示されている。自ら考え、判断し、表現する力を育むために、話し合い活動で用いる学習用語や話し合いの観点が示されている。</p> <p>③ 補充的学習が促されるように巻末に「補充教材集」が示されている。主体的に学習に取り組むために、学習の方法を、目標、考えよう、生かそう、振り返ろうという「学習の進め方」が示されている。</p> <p>④ 掲示物に書く活動では「クリーン大作戦」について、整理して書く活動では「森林保護」についてなど、SDGsの取組に関連したテーマが設定されている。書写の学習を学校生活のどのような場面で生かすことができるか、話し合うための事例が示されている。</p> <p>⑤ 各単元にあるコラムでは用具の知識や日常生活への関連、季節の行事、鑑賞などを扱い、多角的な視点での文字資料が多く掲載されている。国際交流の観点から、エアメールの基本的な書き方が掲載されている。</p>	<p>① 基礎基本の確実な定着を図るために、学習のポイントが一目でわかる「学習の窓」が設定されている。基本的な内容を押さえやすくするために、筆使いや準備片付けの手順など動画で見られるように二次元コードが付されている。</p> <p>② 自ら考え、判断し、表現するために、話し合う活動が設定され、対話のモデルがイラストを用いて示されている。各単元の構成は、考えが深まるように、考えよう、確かめよう、生かそうの3つのパートにより構成されている。</p> <p>③ 見通しをもって学習・活動に取り組めるように、「学習の進め方」が写真を用いて示されている。家庭でも学習しやすくするために、ワークブックとして書写ブックが付属されている。</p> <p>④ 国語科との関連を図るために、『枕草子』や『平家物語』など国語科で扱われる教材が設定されている。特別活動との関連を図るために、体育会や文化祭などの場面で活用できる立て看板や応援旗などの作成例が写真を用いて示されている。</p> <p>⑤ 「全国文字マップ」と「多様な文字文化」などを用いて用具の製造工程や文字の役割や背景などが示されている。多様な文化に触れることができるように、アイヌの文化が示されている。</p>
<p>① 配列を意識して学習できるよう、中心線が示されている。各教材で学習すべき内容が一目でわかるように毛筆の教材は見開き2ページで構成されている。学習した内容を活用しやすくするために、活動場面の写真が多く掲載されている。</p>	<p>① 毛筆の学習を生かして硬筆で書く活動を多く取り入れ、取り外しが可能な「書写ブック」では、繰り返し練習、書写テスト、日常に役立つ書式などが示されている。行書の教材では、半紙原寸大の手本が示されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

3

教科 社会

種目 社会（地理的分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい社会 地理	1・2	A B	302
17	教出	中学社会 地理 地域にまなぶ	1・2	A B	308
46	帝国	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	1・2	A B	310
116	日文	中学社会 地理的分野	1・2	A B	298

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい社会 地理
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 地理的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 編や章、節の終末に、語句の意味の確認や地図や文章の空欄補充などを行う「基礎・基本のまとめ」が示されている。グラフや地図の読み取り方、作成の仕方などを学ぶ「スキル・アップ」のコーナーがあり、基礎的な技能の定着を図る活動を取り上げた「集める」「読み取る」が設定されている。</p> <p>② 章や節の終末に、学習した内容をクラスやグループでの話し合いをもとに図表にまとめ、まとめた情報をもとに自分の意見を作るなどの学習活動を示した「みんなでチャレンジ」が設定されている。読み取ったことをもとに表現する活動を示した「まとめる」が設定されている。</p> <p>③ 見開きページが導入資料→学習課題→「チェック&トライ」の流れで構成されている。「見方・考え方」のマークで、学習を深めるテーマが示されている。コラムの「地理にアクセス」で、関連する話題やより発展的な内容が掲載されている。</p> <p>④ 他分野や他教科との関連するページがインターネットで確認できるように分野関連マークや教科関連マークが示されている。発展的な内容の特設ページ「もっと地理」が設定されている。編、章や節をつらぬく「探究課題」が設けられている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「伝統的な生活・文化を受け継ぐ人々の暮らし」で東北地方の祭りや年中行事、伝統工芸品が取り上げられており、他の地方では、沖縄の伝統家屋や、京都の景観、北陸の伝統産業が取り上げられている。巻頭の「持続可能な社会の実現に向けて」で、世界の人々が多様な生活や文化を理解し合い互いに尊重することの大切さが記されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開きページで北方領土、竹島、尖閣諸島の自然環境や資源について説明されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 世界の諸地域には 86 ページ、日本の諸地域には 87 ページが配当されている。各州の冒頭に、世界に占める面積・人口・GDP のグラフと各地の特徴的な事項のイラストが配された地図が、各地方の冒頭に、日本に占める面積・人口・産業のグラフが付されている。インターネットを活用した学習のための URL と QR コードが付されている。編や章ごとにページ番号の帯の色が統一されており、番号の下に学習している州名、地方名が記されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学社会 地理 地域に学ぶ
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 地理的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 章や節の終末に、語句の意味の確認や地図や文章の空欄補充などを行う「学習のまとめと表現」が設定されている。巻頭に地図帳の使い方や人口ピラミッドの作り方などを学ぶ「地理にアプローチ」が設定されている。略地図の作成の仕方やグラフの読み取り方を学ぶ「地理の技」のコーナーが設定されている。</p> <p>② 見開きページに、「～について調べよう、まとめよう」という形で学習内容を表現する活動を示した「表現！」が設定されている。章末に、学習内容を文章にまとめたりする「表現しよう」や、学習した内容をもとに、他者と意見交流を行う「意見を交換しよう」が設定されている。</p> <p>③ 見開きページの冒頭に学習課題が示され、最後の「確認と表現」でまとめる流れで構成されている。資料の読み取りのヒントなどが「LOOK！」という解説文で紹介されている。折り込みのページやコラム「地理の窓」では発展的な内容が示されている。</p> <p>④ 他の単元や、歴史や公民の関連項目や関連ページが示されている。巻頭に、小学校での学習を振り返るページが設けられている。現代の世界の話題（6テーマ）や現代の日本の課題（7テーマ）から学習を深める特設ページが設けられている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「歴史的な視点」の内容として京都の景観とその保存について、「伝統文化の視点」の内容として東北の食文化、伝統工芸品や行事、家屋、祭りが取り上げられている。他の地方では、各地の祭りや伝統芸能などや、北陸の地場産業・伝統的工芸品が取り上げられている。巻頭の「さあ地理の学習を始めよう」で、国際問題解決の視点から学ぶ意義が記されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開きページで竹島、北方領土、尖閣諸島の歴史について説明されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量 使用上の便宜等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 世界の諸地域には 82 ページが配当されており、国を取り上げたページでは、地球儀のような図が付されている。日本の諸地域には 101 ページが配当されている。学習に役立つ情報が見られるウェブサイトにつながる QR コードが、各編や章の最初のページに付されている。本文ページ下の欄外に、本文と内容が関連するページが示されている。章や節ごとにページ番号横の帯の色が統一されている。図版は全ページの彩度が抑えられている。</p>

46 帝国 中学生の地理	116 日文 中学社会 地理的分野
<p>① 章や節の終末に、語句の意味の確認や地図や文章の空欄補充、写真を用いた振り返りなどを行う「章(節)の学習を振り返ろう」が設けられている。地図帳の使い方や、グラフや地図の読み取り方、作成の仕方などを学ぶ「技能をみがく」のコーナーが設けられている。</p> <p>② 見開きページに、自分の言葉で学習内容を説明する活動を示した「説明しよう」が設けられている。世界や日本の諸地域では、節末に、学習した内容を図表にまとめ、情報を関連づけて地域の特徴などを考察する活動や、地域の課題についてグループで話し合う活動などが示されている。</p> <p>③ 見開きページが、導入資料→学習課題→本文→内容を振り返る課題という流れで構成されている。章のはじめに「序説」や「章のねらい」が明記されている。コラムの「地理プラス」では、学習内容に関連した事例が紹介されている。</p> <p>④ 既習事項や他分野との関連が示されている。特設ページの「地域の在り方を考える」では様々な地域の取り組みについて掘り下げて紹介されている。節末に、「節の問い」について自分の考えをまとめる活動が設定されている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「生活・文化に着目して」で東北の伝統行事や伝統工芸について、「環境保全に着目して」で奈良や京都の伝統的工芸品、歴史的景観について取り上げられている。他の地方では、沖縄の家屋や伝統芸能、北陸の地場産業が取り上げられている。巻頭の「地域のよりよい発展を目指して」で、持続可能な社会を実現するため、日本や世界で行われている活動が紹介されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開きページで北方領土、竹島、尖閣諸島の歴史や資源について説明されている。</p>	<p>① 地図や文章の空欄補充、写真を用いた振り返りなどができるように、章末には「〇〇をふりかえろう」が、節末には「学習のまとめ」が設定されている。グラフや地図の読み取り方、作成の仕方などを学ぶ「スキルUP」のコーナーが設けられている。</p> <p>② 見開きページに、学習内容を踏まえて自分の言葉で説明する「確認」が設けられている。節末のまとめには、表やシンキングツールを活用して情報をまとめたり、クラスで意見交換したりする活動を取り上げた「アクティビティ」が設けられている。</p> <p>③ 見開きページが、導入資料→学習課題→確認という流れで構成され、学習課題に対応した「見方・考え方」の例が示されている。「トライ」では学習内容を深める作業が、「深めよう」では課題の理解を深める問が示されている。</p> <p>④ 既習事項や他分野とのつながりが示されている。特設ページの「チャレンジ地理」では、具体的な課題について、調べたり、クラスで議論したりして学習を深める活動が取り上げられている。</p> <p>⑤ 日本の諸地域の、「歴史的背景をテーマに」で京都や奈良の伝統的工芸品について、「持続可能な社会づくりをテーマに」で東北の年中行事や祭り、伝統工芸品について取り上げられている。他の地方では、沖縄の家屋、料理、伝統的工芸品、北陸の伝統産業や地場産業が取り上げられている。多文化共生に関する学習活動が設定されている。北方領土、竹島、尖閣諸島は「日本固有の領土」と記されている。見開きページで北方領土、竹島、尖閣諸島の歴史や資源について説明されている。</p>
<p>① 世界の諸地域には 83 ページ、日本の諸地域には 115 ページが配当されている。各州の冒頭に、土地利用等の地図や世界に占める面積・人口のデータが、各地方の冒頭に、各地の特徴的な事項を表すイラストが配された地図と日本に占める面積・人口のグラフが付されている。学習の補助となる動画などを見ることができる QR コードが、図やグラフ、章や節の始めと終わりに付されている。見開きページの右端に帯が付され、ページ番号の帯の色や、各章の色が統一されている。</p>	<p>① 世界の諸地域には 75 ページ、日本の諸地域には 100 ページが配当されている。各州の冒頭に、土地利用等が示された地図と世界に占める面積・人口・GDP のデータが、各地方の冒頭に、土地利用等が示された地図と日本に占める面積・人口・県内総生産のグラフが付されている。ウェブページにあるデジタル資料を活用するための URL と QR コードが付されている。見開きページの右端に帯が付けられており、ページ番号の帯の色とともに、章ごとに色が統一されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

4

教科 社会

種目 社会（歴史的分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい社会 歴史	1-3	A B	308
17	教出	中学社会 歴史 未来をひらく	1-3	A B	318
46	帝国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	1-3	A B	310
81	山川	中学歴史 日本と世界	1-3	A B	296
116	日文	中学社会 歴史的分野	1-3	A B	336
227	育鵬社	〔最新〕新しい日本の歴史	1-3	A B	320
229	学び舎	ともに学ぶ人間の歴史	1-3	A 4	308

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい社会 歴史
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 小单元ごとの学習課題を明記し、「見方・考え方」「読み取る」などで活動を取り上げ、「チェック」で基本的な内容を確認できるようにになっている。章末の「学習をふり返ろう」でキーワードとなる語句を説明させたり、空欄や年表に記入させたりする課題が設定されている。</p> <p>② 小单元ごとに「トライ」でキーワードを使用して記述する活動や「みんなでチャレンジ」で話し合い活動等が設定されている。章末には「まとめの活動」としてさまざまな思考ツールを活用して学習内容を整理し、時代の特色を記述する活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史にアクセス」で34コーナーを設けて、本文での学習が詳しく説明されたり、関連する学習内容が示されたりしている。また、絵画を視点とした「資料から発見」で4つ、「もつと歴史」で8つの話題を特設ページで紹介するなど発展的な学習内容が掲載されている。</p> <p>④ 第1章で歴史をとらえる見方・考え方や身近な地域の歴史の調べ方が示され、第2章以降の章末に「地域の歴史を調べよう」で探究的な学習の例が示されている。資料に他分野や他教科との関連を示すマークや「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」等が表記されている。現代的な課題への取組としてSDGsについて紹介されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、本文中で「尖閣諸島、竹島、それぞれ内閣の決定により日本領に編入」と記述され、写真資料の下部には「北方領土は一貫して日本の領土」と記されている。2ページにわたり、現在の日本の領土を示す地図とともに、竹島、北方領土、尖閣諸島の歴史的背景を掲載し、日本固有の領土と記されている。また、コラムで国際的に活躍した新渡戸稲造や杉原千畝などの業績が記されている。巻頭2ページには日本の国宝・重要文化財の特集が設定されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 古代に44ページ、近現代に140ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には44ページが割り当てられている。各小单元では初めに学習課題が、また振り返りの課題が終わりに示されている。また、まとめの活動として、時代を大観してまとめる課題が2ページ設けられている。各章ごとに、探究課題への取り組み方法について、段階的に示されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学社会 歴史 未来をひらく
(1) 内容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 時代のイメージを持つことができるように章のはじめに「学習を始めよう」が設定されている。また、小單元ごとの学習課題が示され、「確認」で学習活動の焦点化ができるように構成されている。写真や挿絵に対して、思考の視点を示す吹き出しの問いが記されている。</p> <p>② 小單元ごとに「表現」の課題が設定されており、キーワードを用いて説明したり、章末では意見交換をしたりする活動が設定されている。各章末には「学習のまとめと表現」で時代の変化に注目して説明する活動や、新聞や関係図を作成して時代の特色を記述する活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史を探ろう」では、具体的な事例や 14 テーマの特設ページを設けて発展的な資料が掲載され、歴史学習を掘り下げていく内容が示されている。また、学習内容に関連して「歴史の窓」という学習コラムが設定され、興味や関心をさらに広げる話題が掲載されている。</p> <p>④ 第 1 章において、歴史のとらえ方・調べ方や身近な地域の調べ方が示されている。また、各章の「身近な地域の歴史を調べよう」で、探究的な学習につながる 6 テーマが示されるとともに、欄外に他分野との関連も記されている。歴史学習の終わりに SDGs や現代社会の課題が紹介され、調べ学習の例が示されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、「尖閣諸島を沖縄県に、竹島を島根県に、それぞれ閣議決定により編入」と記されており、2 ページにわたり「隣国と向き合うために」と題して日本の領土領海を表す地図で北方領土、竹島、尖閣諸島が取り上げられ、日本固有の領土と明記されている。特設ページ「歴史を語ろう」で杉原千畝の業績が掲載されている。また、「平和と共生を願う人々」として核兵器のない平和な世界を実現させようとする動きやオリンピック、パラリンピックの始まりが紹介されている。</p>
(2) 構成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 古代に 42 ページ、近現代に 121 ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には 54 ページが割り当てられている。各章の扉のページで、学習のイメージがつかめるよう、生徒と先生の会話が掲載されている。また、單元ごとに、「学習課題」「節をとらえる」が配置され、章末には「学習のまとめと表現」として、日本と世界の歴史の関連図が、表記されている。</p>

46 帝国 社会科 中学生の歴史	81 山川 中学歴史 日本と世界
<p>① 「タイムトラベル」で、各時代の様子がイラストで示されている。小單元ごとの学習課題を明示し、「確認しよう」で学習課題に迫るための内容を、本文から書き出す活動が設定されている。章末の「学んだ事を確かめよう」で、各時代の主なできごとを時系列に整理する学習場面が設定されている。</p> <p>② 小單元ごとの「説明しよう」で、学習課題に迫る内容について、自分の言葉で説明する活動が設定されている。「技能を磨く」で、資料の扱い方を学習する場面が設定されている。また、さまざまな方法で思考を整理して、時代の特色を説明する活動が設定されている。</p> <p>③ 「歴史プラス」「人物コラム」として本文に関連したできごとや人物等について詳しく紹介するコーナーが設定されている。また、異なる意見や立場から考察するために「多面的・多角的に考えてみよう」の特設ページが3つ設定されている。</p> <p>④ 第1部で「歴史のとらえ方と調べ方」が示されている。本文の学習を深めるために欄外に他分野との関連が語句で示されている。「歴史を探ろう」では、12テーマが設定され、探究的な学習につながる資料が掲載されている。43テーマのコラム「未来に向けて」のうち、SDGsに関連するものにはマークで付されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、本文中に「竹島も現在の島根県に編入」、「尖閣諸島も沖縄県に編入」と記述されており、「歴史を探ろう」で2ページをあて「日本の領土確定と近隣諸国」として尖閣諸島や竹島が日本固有の領土であることを示す古地図や当時の生活の写真や歴史的経緯が掲載され、竹島は領有権を確立、尖閣諸島は日本固有の領土と記述されている。巻頭2ページをあて、日本各地の伝統行事と祭りが特集され、平和をテーマとするコラムが8か所に掲載されている。</p>	<p>① 小單元ごとの「学習課題」が明記されている。キーワードとなる語句の用語解説が欄外に表記されている。また、写真や挿絵に吹き出しの問いがあり、資料を読み解くヒントを与えながら、学習活動を行うことができるように構成されている。</p> <p>② 小単元の最後に「ステップアップ」が設定され、学習内容に関連して考えたりまとめたりする場面が示されている。各章末には「まとめ」が設定され、各節に学習内容を表で整理したり考えや理由を説明したり、記述したりする活動が示されている。</p> <p>③ 「コラム」や「人物」のコーナーが設定され、本文と関連した事象や人物についてより詳しく記述されている。発展的な学習として、「歴史へのアプローチ」では10テーマ特設ページを設け、テーマをしぼって多面的・多角的に考えることができるように資料が掲載されている。</p> <p>④ 第1章で年代の表し方や身近な地域の調べ方について示すとともに、図書館や博物館を利用した調査について記述されている。「地域からのアプローチ」で7地域を具体例として、地域を通じた学習が示されている。「歴史を考えよう」では7テーマを取り上げ、探究的な学習につながる資料が掲載されている。</p> <p>⑤ 領土問題については本文で尖閣諸島も沖縄県に編入したと記述されており、特設ページ「歴史へのアプローチ」では「日本の領土の変遷」が掲載され、北方領土が日本固有の領土であることや竹島、尖閣諸島が閣議決定によって日本に編入されたことの歴史的経緯が地図とともに2ページにわたって記述されている。また、国際貢献と平和外交について、国際連合難民高等弁務官として活躍した緒方貞子が紹介されている。</p>
<p>① 古代に44ページ、近現代に138ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には32ページが割り当てられている。章のはじめに「タイムトラベル」で時代を大観し、各小単元の学習課題を基に考えさせ、授業後に基礎・基本の確認と内容を説明させる活動を行うことができるよう配列されている。また、章末には2ページで学習の振り返りとその時代の特色を説明する活動が設定されている。</p>	<p>① 古代に48ページ、近現代に130ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には52ページが割り当てられている。各章のはじめに、図版とともに日本史、世界史を並行させた略年表が、「〇世紀の世界」では世界史的な歴史地図がイラストとともに見開きで掲載されている。各章末の「まとめ」はワークシートになっており、生徒が記述するように構成されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	116 日文 中学社会 歴史的分野
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 歴史的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 歴史的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間および特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 小單元ごとに「見方・考え方」として、比較・つながり・推移が示されている。また、「深めよう」で基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をはかり、理解を深める活動が設定されている。学習の見通しを立てることができる導入や各単元の最後にまとめが設定されている。</p> <p>② 小單元ごとに「確認」で、課題に対して説明する活動が示されている。各編末の「学習の整理と確認」で地図や年表をもとに説明したり、「アクティビティ」で文字や法、政策など6つのテーマについて学習内容をまとめ、時代の特色を記述したりする活動などが設定されている。</p> <p>③ 本文の補足的な学習内容として「歴史+α」、時代の中の女性についてのコラム、7テーマの特設ページ「歴史を掘り下げる」が設定されている。発展的な学習内容として、多面的・多角的に考えることができるように、5テーマで構成される「チャレンジ歴史」が設定されている。</p> <p>④ 第1編で調べ方や年代等の区分の表し方が示されている。『歴史との対話』を未来に活かす』では、歴史学習のまとめとして現代の課題について歴史を踏まえて考える学習が設定されている。該当の単元に他分野等との関連が示されている。探究的な学習につながる「でかけよう地域調べ」が各編に設定されている。SDGsのモデル都市として北九州市が紹介されている。</p> <p>⑤ 領土問題では、尖閣諸島を沖縄県に、竹島を島根県に編入することを閣議決定し、日本領としたと記されている。特設ページ「歴史を掘り下げる」では「冷戦終結後の近隣諸国との関係」が掲載され、2頁にわたり地図や写真とともに歴史的経緯と現状や日本固有の領土であることが記述されている。また、コラム「先人に学ぶ」では、岡倉天心や新渡戸稲造、杉原千畝らが、「課題例」では「世界平和の取り組みに学ぶ」が示され、伝統・文化や国際平和のテーマについて記述されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量およびその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 古代に50ページ、近現代に140ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史的内容には31ページが割り当てられている。各編の初めに見開き2ページにわたる図版を使った学習課題と同じく世界史的な地図と年表を掲載した「地図で見る世界の動き」が配置されている。また、各編末には「学習の整理と活用」が設けられ、その時代の特色について言語活動を用いてまとめる課題が2ページで設けられている。</p>

227 育鵬社 最新 新しい日本の歴史	229 学び舎 とともに学ぶ 人間の歴史 歴史的分野
<p>① 時代の流れを視覚的に表すために各章の扉に歴史のモノサシが示されている。「鳥の目で見ると」、時代の主なできごとなどを大観するとともに、「虫の目で見ると」、資料を細部まで読み取る学習が設定されている。基礎基本の定着を図るため、各章末に「学習のまとめ」が設定されている。</p> <p>② 章末の「私の歴史博物館」でデザインしてみようで、各時代の特色をとらえる学習活動が設定されている。また「学習のまとめ」で時代の特色を記述する活動を設定するとともに「歴史のターニングポイント」の特設ページで時代ごとの題材を設定し、クラスで議論する活動が設定されている。</p> <p>③ 16項目の「歴史ズームイン」や6項目の「このころ世界は」、15人の女性を「なでしこ日本史」として紹介するなど、発展的な学習につながる資料が掲載されている。また、補足的な学習として「歴史ビュー」で16のできごと、「人物クローズアップ」で15人が紹介されている。</p> <p>④ 「地域の歴史を調べてみよう」では、探究的な学習につながるページが設定され、「歴史ワクワク調査隊6つの心得」として、調べ方や調査の具体例が示されている。また、巻末の「歴史学習のまとめ」で、歴史新聞の作成や日本の歴史を大観する「日本の歴史10大事件」「日本の歴史で重要な役割を果たした人物ベスト10」をまとめる活動が設定されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、本文中に「東シナ海の尖閣諸島を沖縄県に、日本海の竹島を島根県にそれぞれ組み入れた」と記述され、「歴史ズームイン」では、2ページにわたって、北方領土、竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土と記載され、北方領土及び竹島は不法占拠と記述されている。巻末2ページに「世界と日本の世界文化遺産」の特集が掲載されている。また、コラムで新渡戸稲造や杉原千畝らの業績が紹介されている。</p>	<p>① 小单元ごとに、複数の文で記された学習課題が示されている。また、各章末「ふりかえる」で、主に政治が行われていた場所や貿易が行われた都市などを地図中で確認したり、それぞれの事象を時系列で整理して関連付けたりする学習活動が設定されている。</p> <p>② 各部末に「学習のまとめ」が設定され、地図や表を使って説明したり、自分の考えをノートにまとめたりする活動や、ゲーム形式でグループ活動をしたり、クラスやグループで発表したりする活動を通して、時代の特色を記述する学習が設定されている。</p> <p>③ 補足的な学習として「フォーカス」では、単元の学習内容の出来事や人物の内容に焦点を当て、37テーマで説明されている。地域の歴史についてインタビューして調べたり、火おこし体験をしたりするなど自発的に学習が進められる7つの特設ページ「歴史を体験する」が設けられている。</p> <p>④ 「歴史への案内」で調べ方やまとめ方、年代や時代の区分について説明されている。また、「地域の博物館で調べる」では、探究的な学習につながる内容として、フィールドワーク、インタビュー、博物館を利用した学習などが示されている。現代的で国際的な課題への取組としてSDGsについて記述されている。</p> <p>⑤ 領土問題については、欄外において尖閣諸島・竹島が日本の領土として編入することを閣議で決定したと記述され、北方領土については、「日本固有の領土であり、その帰属の問題を解決してロシアと平和条約を結ぶことを方針として交渉している」と記述されている。また、「戦争と二人の少女」として、アンネ＝フランクを取り上げたり、「今、世界の子どもたちは」として、社会の課題に取り組む子どもを取り上げたりするなど、国際社会の平和について記述されている。</p>
<p>① 古代に49ページ、近現代に135ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史の内容には26ページが割り当てられている。章のはじめに「海洋国家日本の歩み」として時代を象徴する海上交通が取り上げられ、「鳥の目で見ると」で時代を大観させ、「虫の目で見ると」で具体的な時代の様子が示されている。章末には「学習のまとめ」とともに時代の女性を取り上げた「なでしこ日本史」が配置されている。</p>	<p>① 古代に44ページ、近現代に146ページ、古代文明から近代ヨーロッパの動向に関する世界史の内容には38ページが割り当てられている。各章の初めに、宗教や交通手段など、テーマを決めて、世界の様子が世界地図、図版とともに見開きでまとめられ、章の学習課題が示されている。また、各章末には「ふりかえる」が、各部の終わりには「まとめ」が設定されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

5

教科 社会

種目 社会（公民的分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい社会 公民	3	A B	2 6 2
17	教出	中学社会 公民 とともに生きる	3	A B	2 7 2
46	帝国	社会科 中学生の公民 よりよい社会をめざして	3	A B	2 4 6
116	日文	中学社会 公民的分野	3	A B	2 6 4
225	自由社	新しい公民教科書	3	A B	2 5 2
227	育鵬社	〔最新〕 新しいみんなの公民	3	A B	2 5 6

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい社会 公民
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 社会的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 社会的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 見開き左上段に、学習課題が示されている。「集める」「読み取る」などの基礎的・基本的な技能を身につけるための「スキルアップ」のコーナーが設けられている。巻末に用語解説があり、基本的な語句の解説が記されている。</p> <p>② 各ページの最後にある「チェック」における基礎的内容を踏まえ、学習課題に対するまとめを行う「トライ」が設定されている。「みんなでチャレンジ」では、イラストなどを用いて身近な課題を取り上げ、グループによる対話的な学習が示されている。</p> <p>③ 生徒が主体的に学習に取り組むために、「見方・考え方」という考えをまとめる活動や、資料の読み取りなどの課題が設定されている。学習内容に関連した発展的な学習として「もっと公民」が用意されている。「集める」「読み取る」「まとめる」では、自主的な学習を促す課題が示されている。</p> <p>④ 他分野、他教科との関連がマークが付されており、一部はQRコードから関連する教科書の紙面が確認できるよう設定されている。全ての章が探究活動の流れで構成されている。終章では「持続可能な社会の実現」をテーマに自ら課題を設定して取り組む探究活動が設定されている。</p> <p>⑤ 文化に6ページをあて、伝統文化として、能や歌舞伎、衣食住や年中行事などが記されている。伝統文化を守りながら、新しい文化を創造していくことの必要性が記されている。領土問題に2ページをあて、北方領土と竹島、尖閣諸島についてそれぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組が記載されている。SDGsについては第5章の導入で取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 現代社会 30P、憲法 36P、政治 50P、経済 50P、地球社会 32P、終章 8Pとなっている。使い方のガイダンスは2ページ分で、「章の構成の学び方」と「本文ページの構成と学び方」が記されている。見開きを、「興味・関心を喚起する導入資料→学習のめあてを示す『学習課題』→本文→整理とまとめ『チェック&トライ』の流れで構成されている。巻末には「用語解説」が配置されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学社会 公民 ともに生きる
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 社会的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 社会的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 見開き左上段に、学習課題が示されている。本文の語句や言葉を補足して、さらに詳しく解説した「側注解説」が記されている。巻末に用語解説があり、基本的な語句に関する解説が記されている。</p> <p>② 各頁の最後にある、「表現」で、学習内容の確認と学習内容を活用した説明を必要とする課題が設定されている。「言葉で伝え合おう」ではまちづくりや裁判員制度などの6つのテーマを紹介し、ディベートやプレゼンテーション、レポート作成といった形式で表現活動が設定されている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組むために、「Q」という資料についての、問いかけや活動、活用を意識した「見方・考え方」という課題が設定されている。「読んで深く考えよう」では発展的な学習が用意されている。「読み解こう」では、自主的な学習を促す課題が示されている。</p> <p>④ ページ下部に小学校、他分野、他教科、SDGs との関連項目が記載されている。全体の学習を通して「どのようにして持続可能な未来を築くことができるか」について探究していくという形で構成されている。終章でこのテーマに対する「私の提案」を作成する探究活動が設定されている。</p> <p>⑤ 文化に6ページをあて、伝統文化については、伝統技術を現代技術に生かすことや、地域の伝統を受け継ぐこと、日本の「美德」、異文化理解について掲載されている。領土問題に4ページをあて、北方領土と竹島、尖閣諸島について、それぞれの問題が起こった経緯とともに、解決に向けた取組が紹介されている。SDGs については、巻頭ページで取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 現代社会 22P、憲法 40P、政治 42P、経済 36P、社会保障 20P、国際社会 32P、終章 8Pとなっている。公民学習を始めるにあたっての説明が2ページ記されている。使い方のガイダンスは2ページ分で、見開きページの見方・使い方について、記されている。「学習課題」→本文→「確認/表現」という流れで構成されている。メディアを活用について4ページ記され、ウェブサイトへのリンクも付されている。</p>

46 帝国 社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	116 日文 中学社会 公民的分野
<p>① 見開きの左上に、その節の学習課題と、このページの学習課題が記されている。「文章・語句に関する関連する資料」「本文の補足説明」「人の声」が記されている。用語の解説が見開きページの中に記されている。</p> <p>② 各頁の最後にある、「説明しよう」に学習内容についての論理的な説明を必要とする課題が設定されている。各節末にある「アクティブ公民」では、対話的な活動が設定されている。「技能をみがく」では、ロールプレイングやディベートといった言語活動を関する学習が掲載されている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組むために、章や節の冒頭に「章の問い」「節の問い」が示され、「資料活用」という課題が設定されている。「やってみよう」では、自主的な学習を促す課題が示されている。章末には「学習を振り返ろう」という語句、図表などを活用した復習課題が設定されている。</p> <p>④ ページ下部に「小学校・地理・歴史との関連」が記載されている。「公民にプラス」「先輩たちの選択」に学習内容に関連する実社会の動きや実生活での取組の様子がコラムやインタビュー形式で掲載されている。終章では「持続可能な社会」の実現に向けての探究活動が設定されている。</p> <p>⑤ 文化に6ページをあて、年中行事や能・狂言などが掲載され、受け継がれているものに、異文化を受け入れ調和させながら引き継がれ、創造されていくと説明されている。領土問題に2ページをあて、北方領土と竹島、尖閣諸島について、それぞれの問題が起こった経緯とともに、解決に向けた取組が紹介されている。SDGsについては、第4部で取り上げられている。</p>	<p>① 見開き左上段に、学習課題が示されている。課題について考える手助けとなるチャートや表などを「シンキングツールマーク」で示している。巻末に用語解説と類似用語集が記されている。</p> <p>② 各頁の最後にある、「確認」では、学習課題に対する自分考えを説明する問いが設定されている。「情報スキルアップ」では、統計データやグラフの読み方や使い方、新聞の読み方と伝え方などの情報活用能力の向上に必要なテーマが紹介されている。</p> <p>③ 生徒が主体的に学習に取り組むために、「見方・考え方」では、学習課題の解決の手がかりが示されている。章末には発展的な学習として「アクティビティ」は主体的な学習を促す課題が示されている。章末に「学習の整理と活用」という復習課題が設定されている。</p> <p>④ ページ下部の「連携コーナー」に小学校、他分野の学習とのつながりが発問形式で示されている。「明日に向かって」「公民+α」に社会参画に関するコラムが掲載されている。終章では既習事項を踏まえ「持続可能な社会をめざして」をテーマとした探究活動が設定されている。</p> <p>⑤ 文化に6ページをあて、伝統文化として、年中行事、能・狂言などが掲載され、伝統文化を現代に生かす工夫が必要であると記されている。領土問題に4ページをあて、北方領土と竹島、尖閣諸島について、それぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組とともに、「世界の領土問題とその解決」が紹介されている。SDGsについては、巻頭ページで取り上げられている。</p>
<p>① 現代社会 25P、憲法 36P、政治 50P、経済 62P、国際 40P、終章 8Pとなっている。使い方ガイダンスは2ページで、部や章、本文ページの学習の流れが示されている。公民の学習の全体像について記されている。見開きが、興味・関心を引く「導入」→「学習課題」→「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の流れで構成されている。タブレットやパソコンで閲覧できるリンクが付されている。</p>	<p>① 現代社会 28P、憲法 42P、政治 42P、経済 52P、国際 44P、終章 5Pとなっている。教科書の構成と使い方について2ページにまとめられている。見開きが、学習課題→本文→確認コーナーが設けられ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されている。ICTを用いた活動に対応したページにはデジタルマークが付されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	225 自由社 中学社会 新しい公民教科書
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 社会的事象に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 社会的事象について、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 本文中の語句や事柄に関する解説が見開きページの中に記されている。見開き右下に「ここがポイント」として、重要な確認事項を記している。単元末に、重要語句の中からさらに重要な語句を「最重要語句」として記している。</p> <p>② 各章に設定されている「アクティブに深めよう」では、グループ活動の形式を用いて、与えられたテーマについて自分なりの考えを発表する活動が設定されている。また、そのテーマに対して考えを深めるために、文字数を示し、文章でまとめる課題が設定されている。</p> <p>③ 生徒が主体的に学習に取り組むために、章末の「学習のまとめ」では、自己評価と重要語句の確認が記されている。学習内容を深めるため、単元に関連のある「ミニ知識」が記載されている。「やってみよう」は主体的な学習を促す課題が示されている。</p> <p>④ 「もっと知りたい」に学習内容を他分野、他教科や実社会の問題と関連づけた内容が、コラム形式で掲載されている。終章で「課題の探求」としてレポートからプレゼンテーションまでの手順や論文の書き方の基本が取り上げられている。ディベートについて実践例をあげて記述されている。</p> <p>⑤ 文化に10ページをあて、「文化の継承と創造」について説明されるとともに、「日本人の精神」「科学」「芸術」「宗教」について取り上げられている。我が国の領域に関する課題、領土問題について、6ページをあて、北方領土と竹島、尖閣諸島において、それぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組などが記載されている。SDGsについては終章で取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 現代日本 22P、社会生活 20P、立憲国家 20P、憲法・政治 55P、経済 44P、国際 41P、終章 17Pとなっている。「この教科書に学ぶにあたって」と「各章末の学習のまとめと発展の取り組み方」について2ページにまとめられ、公民を学ぶ目的と教科書の使い方についてのガイダンスが示されている。「学習課題」→「本文」→学習内容を振り返る「ここがポイント」の展開で記されている。</p>

227 育鵬社 最新 新しいみんなの公民

- ① 各章の最初には、小学校との関連内容や章で学ぶ課題について記されている。見開き左上部に、学習課題が示されている。巻末に用語解説があり、基本的な語句に関する解説が記されている。
- ② 各項の右下に「鉛筆マーク」があり、学習課題に対する自分の考えをまとめ、表現する課題が設定されている。各章末には、学習内容を生かして言語活動を行うテーマが紹介されており、「スキルアップ」では発言の仕方、ロールプレイング、ディベートの方法について紹介されている。
- ③ 生徒が主体的に学習に取り組むために、章の冒頭に、学習内容の趣旨をとらえさせる「入り口」のコーナーが設けられている。発展的な学習として「学習を深めよう」のコーナーが用意されている。「TRY !」は主体的な学習を促す課題が示されている。
- ④ 他分野との関連のあるページには、マークと語句が掲載されている。「やってみよう」「学習を深めよう」に身近な話題や実生活の場面への活用につながる話題が取り上げられている。終章では探究的な活動としてレポート作成からプレゼンテーションまでの手順や方法が記述されている。
- ⑤ 文化に8ページをあてており、文化と生活、伝統文化の影響、文化の継承と創造について、取り上げられている。領土問題においては4ページをあて、北方領土と竹島、尖閣諸島について、それぞれの問題が起こった経緯や解決に向けた取組とともに、世界各地の領土・領海を巡る問題が記載されている。SDGsについては、第5章の章末で取り上げられている。

- ① 現代社会 27P、憲法 40P、政治 40P、経済 52P、国際 35P、終章 6Pとなっている。「なぜ公民を学ぶのか」と「公民について」が3ページにまとめられている。教科書の基本構成と学習の流れについて示されている。見開きが、「学習課題」→本文→「学習のまとめ」という流れで掲載されている。巻末には、「法令」や「年表」、「日本の伝統文化」の一覧表など、学習資料が配置されている

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

6

教科 社会

種目 地図

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい社会 地図	1-3	A B	192
46	帝国	中学校社会科地図	1-3	A 4	188

種目名 (地図)

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい社会 地図
(1) 内容の 特徴・ 表現	<p>① 地図の活用に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象についての知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① P4の「この地図帳の地図記号」では、地図にかかわる記号が分類して示され、索引の使い方や土地の高さの表し方が説明されている。P5・6の「この地図帳の活用方法」では一般図とテーマ図、グラフ、写真等の資料の特徴が示され、ヨーロッパを例に挙げながら活用方法が説明されている。また、歴史的分野や公民的分野を学習する際の地図の活用が説明されている。</p> <p>② 「この地図でいっしょに『世界旅行』をする友達と先生」というキャラクターが示されている。情報活用能力を育成する活動として、先生は課題を示す役割、生徒は資料の読み取りのヒントを与える役割で、課題に応じて情報を収集、判断、表現する活動が促されるように構成されている。P18には世界の9つの植生の写真が掲載され、世界の気候と自然環境の関連が説明されている。</p> <p>③ P3の「ICT（情報通信技術）を活用した学習」では、Dマークが示されている21ページ分の学習を、インターネットを使って深めることができるように、学習内容に関連したWebページや白地図等が閲覧できるリンク集を開くQRコードが掲載されている。</p> <p>④ P151、152では、仙台市の津波避難に関わるハザードマップが示され、東日本大震災での津波被害を基に、対策を講じていることが説明されている。P163の「世界と日本の結び付き」では、都道府県別の在留外国人数や国籍別の内訳など、4つのグラフと資料が掲載されている。</p> <p>⑤ P7、8では、SDGsが取り上げられ、世界を変えるための17の目標が示されている。P190・191の「日本の周辺」では、地図上に国境がはっきりと示され、竹島、尖閣諸島、択捉島などの写真とともに紹介されている。尖閣諸島は日本固有の領土であることが国際的にも認められているということ、竹島、択捉島（北方領土）については、それぞれ韓国とロシアに不法に占拠されているが、日本は抗議しつつ問題解決の努力を続けていることが説明されている。</p>
(2) 構成・ 配列及び 分量 使用上の 便宜等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 世界、日本、統計、索引で構成されている。ユニバーサルデザインに対応し、UDフォントを多くの文字に採用している。カラーユニバーサルデザインに対応し、地図やグラフは、色覚特性のある生徒が容易に見分けられる色の組み合わせが採用されている。巻末には、統計10ページ、索引11ページが配分されている。</p>

種目名 (地図)

項目	観 点 の 具 体	46 帝国 中学校社会科地図
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 地図の活用に関する基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 地理的事象についての知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促される教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他分野、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① P4の「この地図帳の凡例」では、地図にかかわる記号が分類して示されている。P5～8の「地図帳の使い方」では、小学校で学習した内容を補足し、縮尺や地図の要素など地図を読み取る際に必要な基礎的な知識と、索引や統計など地図帳を構成する資料の活用が説明されている。また、地図の種類や資料図の読み取り方、地形図などを例示して、地図の活用方法が説明されている。</p> <p>② P6では、各ページに設けられた地図活用の技能を身に付ける「地図活用」コーナーについて説明されている。情報活用能力を育成する活動として、P68の「地図活用」では、アマゾン川の内陸部まで船がのぼることができる理由を、二つ以上の資料を活用しながら説明する課題が示されている。P96では、中国・四国地方の各都市の海沿いの土地利用が、地図とイラストを組み合わせで掲載されている。</p> <p>③ P6の「二次元コードを使おう」では、QRコードが示されている34ページ分の学習を、インターネットを使って深めることができるように、学習内容に関連した各種資料やクイズ、動画サイトなどのコンテンツを見ることができる説明が掲載されている。</p> <p>④ P123、124では、陸高を詳細に示した地形図をもとに、その地域で起こりやすい自然災害を読み取ったり、対策を考えたりする課題が示されている。P161の「観光」にかかわる資料では、外国人が多く訪れる全国94か所の観光地の特徴が5つに分類され、地図上に示されている。</p> <p>⑤ P13、14では、北極海の結氷範囲の変化などの世界の環境問題や、持続可能な社会への取り組みが、地図と写真を用いて紹介されている。P78～82の日本列島の地図では、国境がはっきりと示され、尖閣諸島、竹島、国後島が写真で紹介されている。尖閣諸島は日本固有の領土であるということ、竹島と国後島（北方領土）についても日本固有の領土であるが、それぞれ韓国とロシアに不法に占拠されていることが説明されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 使い方・資料、世界、日本、統計、索引で構成されている。ユニバーサルデザインに対応し、UDフォントを全面で使用している。地図やグラフについては、色覚特性のある生徒にも判別しやすいようにカラーユニバーサルデザインに対応した色使いが採用されている。巻末には、統計9ページ、索引12ページが配分されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

7

教科 数学

種目 数学

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい数学1	1	B5	312
		新しい数学2	2	B5	250
		新しい数学3	3	B5	284
4	大日本	数学の世界1年	1	B5	324
		数学の世界2年	2	B5	250
		数学の世界3年	3	B5	302
11	学図	中学校数学1	1	B5	316
		中学校数学2	2	B5	270
		中学校数学3	3	B5	310
17	教出	中学数学 1	1	B5	332
		中学数学 2	2	B5	280
		中学数学 3	3	B5	306
61	啓林館	未来へひろがる数学1	1	B5	336
		未来へひろがる数学2	2	B5	264
		未来へひろがる数学3	3	B5	320
104	数研	日々の学びに数学的な見方・考え方を はたらかせる これからの数学1	1	B5	312
		見方・考え方がはたらき、問題解決のチ カラが高まる これからの数学1 探求ノート		B5	50
		日々の学びに数学的な見方・考え方を はたらかせる これからの数学2	2	B5	254
		見方・考え方がはたらき、問題解決のチ カラが高まる これからの数学2 探求ノート		B5	50
		日々の学びに数学的な見方・考え方を はたらかせる これからの数学3	3	B5	312
		見方・考え方がはたらき、問題解決のチ カラが高まる これからの数学3 探求ノート		B5	58
116	日文	中学数学1	1	B5	324
		中学数学2	2	B5	254
		中学数学3	3	B5	296

種目名 (数学)

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい数学
<p>(1)</p> <p>内 容 の 特 徴 ・ 表 現</p>	<p>① 数量や図形等についての基礎・基本的な知識技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 数量や図形等について習得した知識技能を活用し、事象から問題を見だし論理的に考え、判断し、表現する力を育成するための言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習を促すために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や日常や社会における生活場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「基本の問題」には、学び直しができるよう章内で関連する問題の見出し、ページ、問題番号が示されている。巻末には、既習の基本的な知識及び技能を確認できる折込ページ「学びのつながり」が設定されている。</p> <p>② 「深い学び」のコーナーでは、問題を見だし論理的に考えられるよう、ページの側注に問題解決の過程が段階的に示されている。「学びをふり返ろう」では、学習を振り返って、他者と話し合ったり自らの考えをまとめ直したりするための視点が示されている。</p> <p>③ 「問」の側注には、巻末の「補充の問題」の関連ページと問題番号が示されており、各章の学習内容を繰り返し練習するための問題が掲載されている。「章の問題B」には、「活用の問題」が発展的な学習として取り上げられている。</p> <p>④ 巻末の「数学の自由研究」には、他教科や日常生活と関連した課題が示されており、取組成果をレポートにまとめ発表するなど、数学を用いた探究的な活動内容が示されている。各課題のページ右上には、関連する教科名が示されている。</p> <p>⑤ 「数学のまど」や問題の挿絵に、金沢駅の鼓門等、日本古来の建築物や伝統模様が取り上げられている。また、伊能忠敬の業績が紹介されるとともに、ガリレオの落下の実験や業績について紹介されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図表、文字表記、レイアウト、その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 各節において、考えさせたり振り返らせたりしたい内容を示した上で、「Q」に関連する具体的な問題を取り上げる構成になっている。「問」における出題では、直前の「例」と似た問題にはマークが付されている。また、まちがい例を基に正しく直し、説明させる問題が設けられている。</p>

種目名 (数学)

項目	観 点 の 具 体	4 大日本 数学の世界
<p>(1)</p> <p>内 容 の 特 徴 ・ 表 現</p>	<p>① 数量や図形等についての基礎・基本的な知識技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 数量や図形等について習得した知識技能を活用し、事象から問題を見だし論理的に考え、判断し、表現する力を育成するための言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習を促すために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や日常や社会における生活場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「Q」の問題を補充し、繰り返し学習ができるように「プラスワン」の問題が記載されている。節のまとめをするための「たしかめよう」には、既習事項を確認するための見出しとページ番号が示されている。</p> <p>② 第1学年の巻頭に、数学の学習としての問題発見・解決の流れを紹介する折込ページ「数学の世界へようこそ」が設定されている。「活用・探究」における出題では、挿絵のキャラクターの対話を基に、問いをつかみ、考えを整理する展開で示されている。</p> <p>③ 巻末には、各章ごとに「補充問題」が掲載されており、発展的な学習が「総合問題」として示されている。巻末には、各学年の学習の要点がまとめられた折込ページがあり、自主的に振り返るための小冊子を作れるよう構成されている。</p> <p>④ 他教科と関連がある問題の横には、教科を表すマークがある。「MATHFUL」では、日常の題材を扱ったコラムが紹介されており、その内容と関連する数学の単元名と探究的な活動が示されている。</p> <p>⑤ 数学史や偉人などの数学に関する話題が紹介されている。日本や世界の伝統ある模様について取り上げてあり、それが現代生活に生かされている場面を問題の挿絵やコラムが掲載されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図表、文字表記、レイアウト、その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 各節で学習を始める手がかりとなる問題を「考えよう」で出題した上で、めあて、学習活動へ進むレイアウトに構成されている。各章末にある「ふり返ろう」では、知識や技能が身に付いたと感じるかなど、振り返る視点とともに各問題番号の横に自己チェックを記入する欄が設けられている。</p>

11 学図 中学校数学	17 教出 中学数学
<p>① 「どんなことがわかったかな」には、学習内容を生徒が確認できるポイントが示されている。「確かめよう」には、関連する問題を扱ったページと問題番号の表記がある。数と式領域では、「計算力を高めよう」のページが設けられている。</p> <p>② 「Question」では、挿絵の登場人物の対話を通して、問題について考えるための要点が示されている。また、問題解決の過程や解決後の「次の課題へ！」などで、登場人物の発言に見立てた吹き出しを用いて、確認したり問いかけたりする内容が示されている。</p> <p>③ 巻末に、補充的な問題を集めた「〇年の復習」。章末には、学びを振り返ることができるコーナーがあり、自己チェックできる観点が設けられている。「役立つ数学」「深めよう」には、発展的な問題が示されている。</p> <p>④ 巻末の「さらなる数学へ」のコーナーでは、日常的な事象を取り上げた問題が示されている。また、SDGsの17の目標が紹介されており、それらの目標と関連付けた探究的な活動の内容を全学年で取り上げられている。</p> <p>⑤ 葛飾北斎の絵について記載され、海外での見方との共通点について取り上げられている。巻頭の「数学見つけた!!」には、日本や世界の伝統的な建築物が紹介されており、「数学の力」には、伝統的なものづくりの内容が示されている。</p>	<p>① 章で学習した内容の要点を振り返ることができる「学習のまとめ」が章末に設定されている。「章の問題」には、基本的な問題の上に学習した知識及び技能が確かに身に付いているかを問いかける文言が記載されている。</p> <p>② 活用型の問題を出題しているページの側注には、問題を見いだそう、自分の考えを持とう、みんなで話し合おうなど、問題解決の過程が段階的に示されている。また、その過程において働かせたい数学的な考え方の具体的な内容が、注釈として加えられている。</p> <p>③ 巻末の「補充問題」には、各章の節ごとの基本的な問題が集められており、問題番号の下には、関連する学習内容を扱ったページ、問題番号等の情報が示されている。また、「実力アップ問題」として、発展的な問題も示されている。</p> <p>④ 各章の扉絵では、その章の学習内容が社会や職業において活用されている内容が紹介されている。また、「数学の広場」には、実際に仕事で数学を活用している人のインタビューや具体的な活用場面などを紹介したコラムが掲載されている。</p> <p>⑤ 日本の伝統模様である麻の葉文様や葛飾北斎の富嶽三十六景が取り上げられ、黄金比に関連した海外の作品が紹介されている。和算や算額、さしがねやおおがねなどの日本の伝統的な物を題材としたコラムが掲載されている。</p>
<p>① 各章の扉ページで問題発見し、その問題について考え、まとめ、次の問題を発見する数学的活動につなげる構成が示されており、教科書の使い方として巻頭のページで紹介されている。各学年の巻末に折込ページ「プログラミング学習を体験してみよう」掲載されている。</p>	<p>① 巻頭の折込ページ「数学的な考え方」に、数学の学習で使いたい考え方をまとめており、考え方をを使う具体的な問題例を示されている。巻末の「学びのマップ」には、前学年までの学習内容と現学年の学習内容のつながりが示されており、既習内容の要点をまとめたページが設けられている。</p>

種目名 (数学)

項目	観 点 の 具 体	61 啓林館 未来へひろがる数学
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 数量や図形等についての基礎・基本的な知識技能の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 数量や図形等について習得した知識技能を活用し、事象から問題を見だし論理的に考え、判断し、表現する力を育成するための言語活動の内容や、情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習を促すために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や日常や社会における生活場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 巻末に「もっと練習しよう」が設けられており、繰り返し練習ができるよう、関連するページと問題番号が表記されている。また、章末問題に「学びをたしかめよう」があり、既習事項がわかるように見出しとページ番号が記載されている。</p> <p>② 「説明しよう」、「話し合おう」、「まとめよう」では、学んだことを表現し、他者と話し合う言語活動が設けられている。また、数学を用いた問題解決では、問題場面、状況整理、問題設定、解決の見通し、新たな発見を促すなど、問題解決の過程が挿絵とともに示されている。</p> <p>③ 「自分から学ぼう編」には、学習した内容の補充的な問題や発展的な問題が掲載されている。「学びのあしあと」では、取組の日付や自らの理解の状況等を自主的に記録できるように構成されている。</p> <p>④ 「学びをいかそう」では、各章の学習内容を身のまわりで役立つ題材が紹介されており、関連する教科名や仕事などの活用場面が示されている。「数学ライブラリー」では、数学的に考えることで見えてくる事柄などが紹介されている。</p> <p>⑤ 日本の伝統的な模様である市松模様や矢絣模様が紹介されている。日本発祥のミウラ折りと人工衛星との関係について触れられている。数学の偉人として、ユークリッドやガリレオの業績について紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、図表、文字表記、レイアウト、その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 巻頭から始まる「みんなで学ぼう編」と巻末から始まる「自分から学ぼう編」で構成されている。「みんなで学ぼう編」における活用型の問題の側注には、「自分から学ぼう編」の関連する題材名とページ番号が示されているなど、相互に活用を促すレイアウトに構成されている。</p>

104 数研 これからの数学	116 日文 中学数学
<p>① 「確認問題」には、既習事項の確認ができるようページ番号が記載されている。基本的な知識及び技能の習得段階において、既習内容で忘れやすいこと、誤りやすいことなどが、挿絵のキャラクターの発言によって示されている。</p> <p>② 問題発見、解決の見通しなどの問題解決の過程が、挿絵の登場人物の対話で進む形式が繰り返し記されている。「考えよう」「調べよう」などのコーナーでは、登場人物が考えたり調べたりした情報を基に、生徒が解決する問題が設けられている。</p> <p>③ 巻末の「チャレンジ編」には、補充的な問題を集めた「力をつけよう」と、応用問題を集めた「力をのばそう」のコーナーが設けられている。別冊「探究ノート」には、生徒の自主的な取組を促す発展的な学習の題材が掲載されている。</p> <p>④ 巻末の「数学旅行」では、身のまわりにひそむ数学を活用した題材が紹介されており、その情報を基に調べ学習などを促す問題が設定されている。学年を越えた内容には「発展」マークが付され、探究的な学習として示されている。</p> <p>⑤ 単元の最初に宇治平等院鳳凰堂などの全国にある建物や京都の通りの名前を使い、課題に向けての導入が設定されている。ライプニッツやユークリッドなどの数学者や国内外の幾何学的な建築物が紹介されている。</p>	<p>① 基本の定着のために節末に「基本の問題」が設けられている。また、学び直しができるよう章内で関連する例題番号やページが示されている。繰り返し学習ができるように、「問」にチャレンジ問題が掲載されている。</p> <p>② 「学び合おう」マークが示されている小節では、自分で考え、話し合いを通して問題解決するための過程が段階的に示されている。「学び合おう」の内容と対応した巻末の「対話シート」には、問題解決に必要な情報の整理を促す内容と振り返りの記入欄が設けられている。</p> <p>③ 巻末の「補充問題」には、各章の基本的な問題が掲載されており、側注には章内で扱ったページと関連する例題や問題の番号が示されている。各章末の「とりくんでみよう」には、自主的な学習を促す発展的な問題が掲載されている。</p> <p>④ 巻末の「数学を仕事に生かす」には、数学を仕事で活用している人へのインタビューと活用例を紹介したコラムが示されている。「数学研究室」には、他教科と関連した内容や高校数学につながる探究的な活動が取り上げられている。</p> <p>⑤ 伊能忠敬の測量やユークリッドの幾何学の業績について紹介し、現代数学とのつながりについて解説されている。第3学年の巻末には、数学史が一望できる形で数学の歴史についてまとめた見開きページが設けられている。</p>
<p>① ページの側注に「ふりかえり」マークがあり、関連する内容を扱ったページ数が示されている。各章の扉ページの前には、次章に関連する既習内容と問題をまとめた「ふりかえり」のページが掲載されている。別冊「探究ノート」に関連する学習の側注には、該当ページを示すマークが付されている。</p>	<p>① 各節の小節で分けられた学習内容が、見開きの2ページでまとまるよう構成されている。各章の扉ページの前に「次の章を学ぶ前に」があり、前学年までの既習内容で、次章の学習に関わる知識及び技能の要点がまとめられており、基本的な確認問題が取り上げられている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

8

教科 理科

種目 理科

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい科学 1	1	A4変型	272
		新しい科学 2	2	A4変型	322
		新しい科学 3	3	A4変型	338
4	大日本	理科の世界 1	1	B5	294
		理科の世界 2	2	B5	318
		理科の世界 3	3	B5	374
11	学図	中学校科学1	1	AB	274
		中学校科学2	2	AB	290
		中学校科学3	3	AB	282
17	教出	自然の探究 中学理科 1	1	AB変型	320
		自然の探究 中学理科 2	2	AB変型	338
		自然の探究 中学理科 3	3	AB変型	376
61	啓林館	未来へひろがるサイエンス1	1	AB	316
		未来へひろがるサイエンス2	2	AB	332
		未来へひろがるサイエンス3	3	AB	364

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい科学
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 自然の事物・現象についての理解や、観察、実験に関する技能の習得等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈する等、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 理科を学ぶことの意義や有用性を実感したり理科への関心を高めたりするために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や日常生活や社会との関連、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の科学技術の実情や、科学の発展に尽くした人の業績等、また他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているのか。</p>	<p>① 各章末に、各節の課題に対する結論の例が紹介されている。各単元末には、「学習内容の整理」として、基礎的・基本的事項や用語がまとめられ、「確かめと応用」として、知識・技能に関する問いが設けられている。各巻末に、薬品の扱いや実験器具の基本操作等がまとめられている。</p> <p>② 各節冒頭で「問題発見レッツスタート」として学習課題へつながる問いが示されている。観察・実験等では、流れが「ステップ1」から順に示され、結果の見方や考察の方法も示されている。「学びを生かして考えよう」では学習内容の活用、「課題に対する結論を表現しよう」では自分の考えをまとめ他者と考えを比較するなどの活動場面が設定されている。</p> <p>③ 動画やシミュレーション、他教科との関連等のコンテンツがインターネット上に用意されている。各単元末の「科学の本だな」で関連した書籍が紹介されている。各巻末では自由研究例の例が示されるとともに、学習内容に関連した科学館や博物館、ジオパーク等が紹介されている。</p> <p>④ 「つながる科学」の中で、身近な現象や技術、他教科等との関連が紹介されている。「どこでも科学」で、生活に関連した観察・実験等が示されている。各巻末の「未来への科学」で、学習内容に関連した研究等が紹介されている。各巻頭の「科学はこんなに便利」で科学の有用性が扱われている。</p> <p>⑤ 各単元末の「世界につながる科学」で、関わる人物のインタビューと日本の成果など、「つながる科学」でも科学者の業績が紹介されている。各巻末で各学年の内容の科学史、第3学年で、日本のノーベル賞受賞者の業績が紹介されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 各単元冒頭に既習事項と学習内容が示され、各章冒頭と章末の「Before & After」で変容を見るための問いが示されている。各節は「問題発見」で始まり「活用」で終わる、探究の過程で構成され、各ページに探究の過程での位置づけが示されている。「科学のミカタ」で見方・考え方の活用が示されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	4 大日本 理科の世界
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	① 自然の事物・現象についての理解や、観察、実験に関する技能の習得等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。 ② 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈する等、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。 ③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。 ④ 理科を学ぶことの意義や有用性を実感したり理科への関心を高めたりするために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や日常生活や社会との関連、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。 ⑤ 我が国の科学技術の実情や、科学の発展に尽くした人の業績等、また他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているのか。	① 各単元冒頭の「これまでに学習したこと」には既習事項、各単元末には内容の「まとめ」が、それぞれ見開き2ページで示され、「単元末問題」も設けられている。各巻頭に「理科の学習の進め方」が示され、観察・実験の基本操作は各巻末に示されるとともにデジタルコンテンツも用意されている。 ② 各学習単位では冒頭に問いが示され、観察・実験等では、目的や手順に加えて「着眼点」が示され、「結果の整理」「結果から考えよう」などの活動、「結果の例」も示されている。「計画を立てよう」「話し合おう」等の活動が設定され、「やってみよう」で課題解決につながる観察・実験等が紹介されている。また、各単元末に「探究活動」が示されている。 ③ 各単元末に「読解力問題」が設けられている。各巻末では、科学館や博物館の紹介と、調べ方の例や利用マナーが示され、第1学年と第2学年で動物園等、第1学年ではジオパークも紹介されている。各巻末の「自由研究にチャレンジしよう！」では、研究例が各学年8つずつ示されている。 ④ 「くらしの中の理科」では日常生活や身の回りの現象とのつながりが紹介されている。「Science Press」の中では関連するトピックや技術、実生活での利用、発展的内容等が取り上げられている。「つながる」では他教科との関連、「ことば」では用語の由来や関連する話題が取り上げられている。 ⑤ 各巻頭で、学習内容に関連する人物のメッセージが取り上げられている。「科学のあしあと」で偉人や日本の科学者が取り上げられている。「Professional」で関連する職業の人物、「日本を知る」で日本の研究や技術等が紹介されている。
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。	① 各単元冒頭に「これから学習すること」が示されている。「問題を見つけよう」等、探究の過程に沿った活動が設定され、「思い出そう」では小学校の学習、「発展」では高等学校の学習とのつながりがそれぞれ示されている。第1学年巻末には「探究の進め方」「ノートやレポートの書き方」が示されている。

11 学図 中学校科学	17 教出 自然の探究 中学理科
<p>① 各節では、冒頭に「この時間の課題」と必要な「見方」「考え方」、節末に「この時間のまとめ」が示されている。観察・実験では、「探究の Can-Do List」として着眼点、赤色の「ストップ!!」で安全上の注意、「基本操作」で技能が示されている。各巻頭で「授業を受けるコツ」が示されている。</p> <p>② 各巻頭の「探究の進め方」で、探究の過程が見開き2ページに示されている。「学びをいかす」に学習内容を活用する問い、「ふり返り」に次の課題へつながる考え、「やってみよう」で探究的な活動が示されている。第1学年巻頭の「伝える・伝えるコツ」ではレポートや発表の方法が示され、各巻末に言語活動で活用できるアイデアボードが用意されている。</p> <p>③ 各章末に、インターネットを活用して章のまとめや基礎問題等を確認できるQRコードが掲載されている。単元末の「学び続ける理科マスター」では、自主的に学習を深めるための活動が提案されている。第3学年巻末の「学校外で調べよう!」では、全国の科学館・博物館などが紹介されている。</p> <p>④ 各巻頭の「なぜ理科を学ぶの?」で、社会とのつながりと有用性が扱われ、「サイエンスカフェ」の中でも扱われている。「つながり」で他教科との関連が示され、「資料」の中で、生活での利用が紹介されている。各単元末の「学びを日常にいかしたら」では、生活と関連する問題が扱われている。</p> <p>⑤ 「発展」「サイエンスカフェ」の中で、内容に関連する科学者の業績と意義、日本での研究が取り上げられている。第2学年の巻頭では、歴史的な偉人と現在活躍する日本のノーベル賞受賞者の業績が取り上げられている。</p>	<p>① 各項目は、冒頭に「課題」、終わりに「結論」が示されている。各章末に「要点チェック」、各単元末に「要点と重要語句の整理」と「基本問題」が設けられている。観察・実験では、必要な「基礎技能」が示され、結果を書き込む欄が設けられている。各巻頭にレポートの書き方が紹介されている。</p> <p>② 各巻頭で「探究の進め方」として、探究の過程が5ページにわたって記載されている。各単元で「疑問から探究してみよう」として、探究の過程に沿って学習を進める構成の項目が設定されている。また、「話し合おう」「調べよう」「やってみよう」「考えよう」等の活動が配置され、それらの活動で活用できるカードやモデル等が各巻末に用意されている。</p> <p>③ 学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる「まなびリンク」が関連するページに設けられている。各巻末には自由研究の例が、各単元から1つずつ示され、課題設定や探究の方法も提案されている。また、博物館や科学館の紹介とともに、施設を活用した学習が示されている。</p> <p>④ 「ハローサイエンス」の中で身近な事項や環境、技術、研究等とのつながりと、意義や有用性が示されている。「言葉」で用語の由来や発展的内容が紹介されている。「ブリッジ算数」では他教科の既習事項との関連が示されている。各巻頭の「自然の探究」で有用性や意義が扱われている。</p> <p>⑤ 「科学者列伝」で科学者と業績、日本の研究成果が紹介され、「ハローサイエンス」の中でも同様に扱われている。第3学年では、日本のノーベル賞受賞者と業績が紹介されるとともに、年表で近代科学の発展の歴史が取り上げられている。</p>
<p>① 各巻頭の「理科で何を学ぶの?」「理科を学ぶとどうなるの?」で見通しが示されている。各単元冒頭では、「学びのあしあと」で変容を見る課題と、「ふり返ろう・つなげよう」で既習事項が示されている。各章は冒頭の「Can-Do List」と章末の「Can-Do List 自己チェック」で目標と自己確認が示されている。</p>	<p>① 各単元冒頭で「学んでいくこと」が示されている。「これまでの学習」「思い出そう」「発展」で既習事項や、高等学校の学習との関連が示されている。各章は「学習前の私」「学習後の私」で変容を見取る構成とされている。各項目は「疑問」ではじまる、探究の過程に沿って構成されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	61 啓林館 未来へひろがるサイエンス
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 自然の事物・現象についての理解や、観察、実験に関する技能の習得等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈する等、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 理科を学ぶことの意義や有用性を実感したり理科への関心を高めたりするために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や日常生活や社会との関連、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国の科学技術の実情や、科学の発展に尽くした人の業績等、また他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているのか。</p>	<p>① 各項目冒頭で問いが示され、「思い出してみよう」で既習事項が示されている。各章末に「基本のチェック」、各単元末に「学習のまとめ」「力だめし」が設けられている。各単元に探究の過程に沿った観察・実験を行う「探Q」が設定され、その際に使用する「探Qシート」が巻末に用意されている。</p> <p>② 「考えてみよう」「活用してみよう」「表現してみよう」「話し合ってみよう」「みんなで解決」など、探究の過程に沿った活動や対話的な活動が設けられている。観察・実験等の後に「探究の振り返り」、各単元末に「みんなで探Qクラブ」が設けられている。各巻末の「サイエンス資料」で、情報活用や言語活動、安全上の注意などが取り上げられている。</p> <p>③ 「ためてみよう」で観察・実験などの題材が紹介されている。インターネット上に用意されたデジタルコンテンツにアクセスするQRコードが示されている。各巻末では、自由研究の例が各単元から1つずつ示され、課題設定や探究の方法、データの取り扱い、参考文献や引用の扱いも示されている。</p> <p>④ 「深めるラボ」「なるほど」で関連する話題や発展的な内容が取り上げられている。「お料理ラボ」「生活ラボ」「部活ラボ」「防災減災ラボ」「関連」で、他教科や生活とのつながりと、その意義や意味が取り上げられている。各単元末の「ひろがる世界」では最新の研究成果が取り上げられている。</p> <p>⑤ 「お仕事ラボ」で研究者・技術者などのインタビューが取り上げられ、「科学史」で偉人の業績が紹介されている。第3学年では、日本のノーベル賞受賞者と業績が紹介されるとともに、年表で近代科学の発展の歴史が取り上げられている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量、使用上の便宜等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 各単元冒頭で「学びの見通し」と「学ぶ前にトライ！」が示され、単元末の「学んだあとにリトライ！」で変容を見取る構成とされている。「発展」では高校の学習、「つながる学び」では既習事項との関連が示されている。活動場面で「比較」「計画・予想」など、探究の過程での位置付けが示されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

9

教科 音楽

種目 音楽（一般）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
17	教出	中学音楽 1 音楽のおくりもの	1	A4変型	92
		中学音楽 2・3上 音楽のおくりもの	2・3	A4変型	92
		中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの		A4変型	92
27	教芸	中学生の音楽 1	1	A4変型	98
		中学生の音楽 2・3上	2・3	A4変型	98
		中学生の音楽 2・3下		A4変型	98

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学音楽 音楽のおくりもの
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを見いだしたりする等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるために、音楽科の特質に応じた言語活動の内容を位置付けたり、情報活用能力を育成したりする活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 中学校で新たに学習する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解するために、ページ右端に示されている。「学びのユニット」「どんな特徴があるかな？」では、楽曲で扱う音楽を形づくっている要素や要素の具体が示されている。巻末には、楽典の内容や楽器の説明、舞台芸術が見開きページで示されている。</p> <p>② 「コンピュータと音楽」では、楽譜作成や音楽データを管理・再生するソフトの紹介など実際に授業で活用するソフトの内容や注意事項が示されている。言語活動を想定した「話し合おう」では、気が付いたことや感じ取ったことを直接教科書に記述できるよう示されている。</p> <p>③ 実際に見たり聴いたり、ワークシートをダウンロードすることで、補充的・発展的な学習や家庭学習で使用することができるよう学習に役立つ情報をウェブサイトで確認することができる「まなびリンク」が設定されている。「音のスケッチ」では、創作の活動が順序立てて計画されており、ワークシート形式で実際に書き込むことができるよう設定されている。</p> <p>④ 「私たちのくらしと音楽」では、著作権やアウトリーチ、教育活動、音楽療法など生活や社会の中の音楽の具体が示されている。『音』ってなあに?』では、自然音や環境音について取り扱い、音環境への関心や音や音楽が生活に果たす役割について実感できるよう説明されている。</p> <p>⑤ 我が国の自然や四季の美しさを感じ取れる楽曲として設定されている歌唱共通教材が「日本の歌 みんなの歌」として示されている。我が国の伝統音楽については、実際に使用されている楽器や床本、各楽器を口唱歌を用いて演奏するための家庭式縦譜などが示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 前半に表現教材(歌唱・創作)、中盤に鑑賞教材、後半は合唱曲等が配置されている。巻頭には、歌唱共通教材の歌詞と写真等や、教科書で扱う作曲者の自筆譜や説明が掲載されている。目次では、「学びのユニット」としてねらいや学習する曲や活動、学習を生かして比較する曲が示されている。</p>

種目名 (音楽 (一般))

項目	観 点 の 具 体	27 教芸 中学生の音楽
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを見いだしたりする等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるために、音楽科の特質に応じた言語活動の内容を位置付けたり、情報活用能力を育成したりする活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 中学校で新たに学習する音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解するために、ページ両端に示されている。「音楽を形づくっている要素」では、各学年で扱う要素について解説ページを設定している。巻末には、「音楽の約束」として楽典の内容が示されている。</p> <p>② 「My Melody」「Let's Create!」では、課題に沿って創意工夫しながら創作活動ができるよう絵や説明、ワークシートが示されている。音楽に関する知的財産の意義（保護と活用）について理解するために、「ルールを守って音楽を楽しもう！」と題し、著作権について取り上げられている。</p> <p>③ 「曲のよさをプレゼンしよう」では、授業で学んだことを生かして、実際に演奏したり音楽を聴かせたりすることで、音楽のよさや美しさについて共有する場面が設定できるよう例示されている。教科書の解説や演奏の様子を動画等で確認するためにQRコードが示され、補充的・発展的な学習を行うことができるよう設定されている。</p> <p>④ 「生活や社会の中の音楽」では、音や音楽の果たす役割やアウトリーチ、音楽に関わる仕事などが示されている。「歌い継ごう日本の歌」では、我が国で長く歌われ親しまれている歌曲や、震災復興で使用された歌曲等が扱われ、生活や社会において音楽が果たしている役割について示されている。</p> <p>⑤ 我が国の自然や四季の美しさを感じ取れる楽曲として設定されている歌唱共通教材が「心の歌」として示されている。民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱については、「演奏者からのアドバイス」が取り上げられ、実際に表現する際のポイントが示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 前半に表現教材（歌唱・創作）、中盤に鑑賞教材、後半は合唱曲等が配置されている。巻頭には、音楽家や音楽に携わっている方のメッセージが掲載されている。目次では、題材や楽曲ごとに扱う音楽を形づくっている要素や、資質・能力の三つの柱を育成するための具体が整理されて示されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

10

教科 音楽

種目 音楽（器楽合奏）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
17	教出	中学器楽 音楽のおくりもの	1-3	A4変型	106
27	教芸	中学生の器楽	1-3	A4変型	106

種目名 (音楽 (器楽))

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学器楽 音楽のおくりもの
(1) 内容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを見いだしたりする等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるために、音楽科の特質に応じた言語活動の内容を位置付けたり、情報活用能力を育成したりする活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各楽器の開始ページに学習の導入として、演奏者のコメントや楽器の歴史、演奏される場面や演奏のポイントが示されている。アルト・リコーダーの学習において、基礎基本の定着を図るためにことができるよう短い練習曲やカノンが示されている。</p> <p>② 「何が同じで、何が違う？」では、管楽器と弦楽器の特徴について協議できるよう教科書に記述できる枠や鑑賞曲が示されている。「音のスケッチ」では、楽器を使った創作が示されており、活動の手順や課題に沿って創意工夫できるよう取り上げられている。</p> <p>③ 技能の習得を確認することができるよう楽器ごとに「まとめの曲」が設定されている。web サイトで楽器の解説や模範演奏を確認したり、自主的な学習や発展的な学習につなげたりするため「まなびリンク」が設定されている。</p> <p>④ 「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」では、諸外国で使用される楽器が紹介され、音楽文化について学習できるよう示されている。「名曲旋律集」では、生活や社会の中で聴くことができる楽曲を、リコーダー等で演奏できるよう代表的な旋律の一部が示されている。</p> <p>⑤ 「With My Heart」では、我が国の伝統・文化について和楽器の演奏家が中学生に向けた楽器の思いや礼儀などについてのメッセージが紹介されている。口唱歌を用いることで楽器の音色や旋律、間など日本音楽の特徴について触れることができるよう和楽器のページが設定されている。</p>
(2) 構成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 教材の構成として、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓、楽曲の順で掲載されている。演奏に必要な奏法などについて、写真や図が分かりやすく配置されている。</p>

種目名 (音楽 (器楽))

項目	観 点 の 具 体	27 教芸 中学生の器楽
(1) 内容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを見いだしたりする等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるために、音楽科の特質に応じた言語活動の内容を位置付けたり、情報活用能力を育成したりする活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるために、創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることができるような内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重する態度を養うために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各楽器の開始ページの「楽器を知ろう」「演奏を聴こう」では、学習の導入として楽器の歴史や演奏される場面、鑑賞教材との関連などが示されている。「吹いてみよう」「弾いてみよう」では、基礎基本の定着を図ることができるよう短い練習曲が示されている。</p> <p>② 「My Melody」では、箏を用いた創作が紹介され、調子の違いや音楽の構成など課題に沿って創意工夫できるよう例示されている。「アンサンブルセミナー」では、左ページに音楽を形づくっている要素、右ページに「深めよう！音楽」が示されており、言語活動の具体が取り上げられている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組んだり、補足的な学習につなげたりすることができるよう楽器ごとに「練習のポイント」「演奏のポイント」が示されている。教科書のQRコードでは、教科書で扱う演奏者が紹介されている。</p> <p>④ 生活や社会の中で楽器が演奏される場面について、楽器ごとに写真や説明を用いて紹介されている。「楽器でMelody」では、リコーダーなどが一人で演奏できるようクラシック作品からJ-POPまで様々な楽曲の旋律の一部が取り上げられている。</p> <p>⑤ 和楽器については、「家庭式縦譜」「文化譜」「口三味線」など音楽科で扱う言葉や楽譜の解説について図や写真を用いて説明されている。巻末では学校内外における音楽活動とのつながりを意識できるよう「楽しもう！和楽器の音楽」「郷土の祭りや芸能」が示されている。</p>
(2) 構成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 教材の構成として、楽曲、リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器、楽曲の順で掲載されている。活動の具体的な手立てや練習曲などが掲載されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

1 1

教科 美術

種目 美術

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
9	開隆堂	美術 1 発見と創造	1	A4変型	66
		美術 2・3 探求と継承	2・3	A4変型	122
38	光村	美術 1	1	A4	80
		美術 2・3	2・3	A4	104
116	日文	美術1 美術との出会い	1	A4変型	74
		美術2・3上 学びの実感と広がり	2・3	A4変型	64
		美術2・3下 学びの探求と未来		A4変型	60

種目名 (美術)

項目	観 点 の 具 体	9 開隆堂 美術
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 造形的な創造活動の基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む表現活動や鑑賞活動における言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるような創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 生活や社会の中の美術の働きについて理解を深めるため、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化のよさや美しさについて理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、諸外国の美術や文化を尊重し、美術を通じた国際社会の平和と美術文化の継承と創造に寄与する態度を養うことができる教材や教育活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① それぞれの題材ごとに学習の目標が3つの観点で明示され、「学習のポイント」として具体的な学習の重点が示されている。また、専門用語が「美術の用語」として解説されている。巻末には、各題材のページから検索できるように造形要素や表現技法、材料・用具などが「学びの資料」としてまとめられている。</p> <p>② 表現中心の題材では、発想・構想の方法や学習の進め方のヒントとなる内容が双葉のマークで示されている。共同制作や話し合い活動によって発想や構想を広げる場面が設定され、生徒同士が交流している写真とともに紹介されている。</p> <p>③ 学びの意義や価値の説明として、様々な職業に就いている方の言葉や、身近な生活の中で見付けられる美術などが紹介されている。また、技法動画や作家についての解説、教科書掲載以外の作品などを視聴することができよう、それぞれの題材ごとにQRコードが掲載されている。</p> <p>④ 身近な風景や素材に関する題材が取り上げられ、作者の言葉が詳しく示されている。また、他教科との関連が具体的な教科名を挙げてページ下に明示されており、特に道徳に関しては、自分自身の内面や、集団や社会との関わりについて多く取り上げられている。</p> <p>⑤ 琳派や浮世絵の作品が、その後の日本や世界に影響を与えた作品として大きく取り上げられている。デザインや工芸の分野においても、日本の伝統的な技法等が紹介されている。また、世界と向き合う美術という視点から、海外の作品が見開きで大きく掲載されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及び配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 「美術1」と「美術2・3」の2冊で構成され、2年間で複数の題材を取り扱うことができるよう「美術2・3」の分量が多くなるよう構成されている。「美術1」では、3年間の学習を地図にたとえ、系統的な学習が図解で示されている。視覚的に読み取ることができるよう教科書の情報にマークが付されている。ページの下には題材同士の関連が示されている。</p>

種目名 (美術)

項目	観 点 の 具 体	38 光村 美術
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 造形的な創造活動の基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む表現活動や鑑賞活動における言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるような創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 生活や社会の中の美術の働きについて理解を深めるため、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化のよさや美しさについて理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、諸外国の美術や文化を尊重し、美術を通じた国際社会の平和と美術文化の継承と創造に寄与する態度を養うことができる教材や教育活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① それぞれの題材ごとに学習の目標が、表現と鑑賞の2つの観点で明示されており、1つの題材の中で表現と鑑賞を一体的に学べるように構成されている。巻末の「学びを支える資料」には、造形要素や表現技法などとともに、付箋を活用したり、メンバーを入れ替えたりして、他者と話し合っ て見方や考え方を広げる方法が紹介されている。</p> <p>② 表現中心の題材では、導入時に鑑賞する作品と発想・構想のきっかけとなる問いが示されている。また、制作している生徒の写真やアイデアスケッチ、複数の作品の制作過程がわかる写真等によって、複数の発想・構想の手立てが示されている。</p> <p>③ 鑑賞作品は、時代や国が違う2つの作品を関連付けながら学習できるように紹介されている。参考作品や技法動画、美術作品等についての音声ガイド等を視聴することができるよう Web コンテンツにリンクしているQRコードが資料内容の説明付きで掲載されている。</p> <p>④ 複数の鑑賞作品が取り上げられ、作品の特徴や作者のコメントと共に紹介されている。特にデザインや工芸の分野では、人と人とのつながりに焦点を当て、生活や社会の中での美術の役割として紹介されている。ページの下の「道徳とのつながり」によって、道徳との関連が示されている。</p> <p>⑤ 自然や色、形、模様など、人や地域と美術との関連を示す題材や作品が取り上げられている。日本の文化である浮世絵では葛飾北斎が大きく取り上げられ、ゴッホなどに代表されるジャポニスムへの流れ、日本の伝統文化と国際社会とのつながりが示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量、 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及び配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 「美術1」と「美術2・3」の2冊で構成されている。「絵や彫刻」「デザインや工芸」「学習を支える資料」という項目別にレイアウトされ、各分野ごとに技法や制作の流れが記載されている。題材が表現と鑑賞を一体的に学習できるように示されており、授業の流れに合わせてページが構成されている。また、他教科との関連を示すコラムが設けられている。</p>

116 日文 美術

- ① それぞれの題材ごとに「学びの目標」が3つの観点で明示されている。また、題材名の副題で具体的な学習の重点が示され、〔共通事項〕と関連する問いとして「造形的な視点」が示されたりしている。また、巻末の資料として、マッピング法や資料集めの方法といった具体的な発想・構想の手立てが紹介されている。
 - ② 表現中心の題材では、作家や生徒の参考作品が紹介されるとともに、制作時に発想や構想を深める「作者の言葉」が示されている。また、伝えたい内容と構図を関連させて指導できるよう写真や映像を単体で扱った題材が示されている。
 - ③ 巻頭や各分野の最初のページには、美術を学習することの意義や学習のねらい、造形的な視点などが明示されている。生徒の身近なマンガやアニメ、東日本大震災から着想した作品などがインパクトのある大きな図版を使って紹介されている。QRコードから視聴できる補助資料が掲載されている。
 - ④ 3年間の題材のテーマが、自分自身から周りの他者、環境や社会、未来へと、視野を広げながら探求していけるよう配列されている。また、題材名の副題として他教科との関連を示す言葉が使われたり、ページ下の双葉マークによって道徳との関連が示されたりしている。
 - ⑤ 長い時間の中で受け継がれてきた文化や精神に着目して作品が取り上げられている。特に「美術2・3上」では日本文化として、水墨画、浮世絵、絵巻物、和菓子、伝統工芸などが複数取り上げられ、関連して近代ヨーロッパでのジャポニスムや身近なマンガの表現技法等が紹介されている。
- ① 発達段階に応じて題材を取り上げられるよう「美術1」「美術2・3上」「美術2・3下」の3冊で構成されている。目次のページに、教科書の使い方や各項目の意図が詳しく説明されている。作品の写真は、見開きページを使って原寸大で示されたり、実感を伴って鑑賞できるようページを折って実際の屏風の状態を再現したりして取り上げられたりしている。

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

1 2

教科 保健体育

種目 保健体育

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい保健体育	1-3	A B	206
4	大日本	中学校保健体育	1-3	B 5変型	196
50	大修館	最新 中学校保健体育	1-3	A B	198
224	学研	中学保健体育	1-3	A B	206

種目名 (保健体育)

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい保健体育
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 健康・安全の大切さに気付く等、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭で自主的な学習が促されるために創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 生徒が積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身に付けさせるために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのようになされているか。</p>	<p>① 「見つける」では、身近な話題や新聞記事などから導入に入り、学習課題につなぎ、得た知識を活用し、生活の中に広げるという流れにより構成されている。資料を見るタイミングも文中に示されている。章の終わりには、キーワードを復習できるよう「学習のまとめ」が示されている。</p> <p>② 「活用する」では学習した内容を生かし、自分の考えをまとめたり、説明したりするコーナーが設けられている。自分の生活や社会の健康・生活・環境などに目を向け、実践的な力つながるよう「広げる」が設けられている。インターネットを活用した学習ができる「D」マークが設けられている。</p> <p>③ 章末資料ではコミュニケーションの方法や、インターネットによるトラブルなど、生活の中に取り入れて生かせるものが紹介されている。自分の生活に照らし合わせたり、生活で生かしたりする内容が取り上げられている。発展的な学習ができる「発展」マークが設けられている。</p> <p>④ 1時間の主な流れが「見つける」、「課題の解決」、「広げる」で示され、学習の進め方が明記されている。2種類の「関連マーク」が設けられ、関連する学習内容のページや他教科との関連が示されている。各章の「学習のまとめ」に、「日常生活に生かそう」という項目が設けられている。</p> <p>⑤ 巻頭では「オリンピック・パラリンピックのメッセージ」、「国や民族を超えて」などが取り上げられている。体育編3章では、文化としてのスポーツの意義について、スポーツが国際親善や世界平和に果たす役割が、読み物資料や写真を提示しながら取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 各学年に保健編と体育編が並列され、体育編は全9項目、保健編は全44項目で構成されている。章末資料がそれぞれの章の終わりに計30ページ紹介されている。本文を補足する凡例や資料が身近なイラストや写真と共に提示されている。キーワードが太字で示されている。</p>

種目名 (保健体育)

項目	観 点 の 具 体	4 大日本 中学校保健体育
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境等、基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 健康・安全の大切さに気付く等、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動の内容や情報活用能力を育成する活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭で自主的な学習が促されるために創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>④ 生徒が積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質や能力を身に付けさせるために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのようになされているか。</p>	<p>① 左ページに本文、右ページに資料が分けて示されている。本文を読んでから資料を見て理解を深めるという流れにより構成されている。学習した知識を再確認できるようキーワードが最後に示されている。心肺蘇生法の資料は見開きで写真が多く示されている。</p> <p>② 「話し合ってみよう」では資料を参考に自分の考えをまとめ、意見交換ができるよう設定されている。各章の終わりには「学びを生かそう」のコーナーが示されており、与えられたテーマから学習したことを生かし、意見を記述しまとめる欄が設けられている。</p> <p>③ 「やってみよう」では資料を基に自分の健康や生活を振り返り、小単元の最後の「活用して深めよう」につなげる流れで構成されている。章末の「学びを生かそう」では、学習したことを普通の生活に生かせるるように具体的な内容が取り上げている。</p> <p>④ 関連した内容を学習するページや、他教科とのつながりを示す「リンク」マークが設けられている。また、家や地域で取り組みたい活動など、学習した内容を実生活の場面で活用する情報を示す「家」、「地域」マークや「学びを生かそう」の欄が設けられている。</p> <p>⑤ 巻頭や体育編3章の「文化としてのスポーツの意義」では、視覚資料を使い、スポーツの平和的な役割、文化的な役割について取り上げられている。また、「オリンピック・パラリンピックの歴史」や「世界で活躍する人々を支える健康」として日本人選手の話が取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 体育編が前半、保健編が後半になるよう配列され、体育編は全9項目、保健編は全40項目で構成されている。巻頭に国際的なスポーツ大会が「スポーツは世界の言葉」として紹介されている。本文は明朝体で、見出し、キーワードが太字のゴシック体で示されている。</p>

50 大修館 最新中学校保健体育	224 学研 中学保健体育
<p>① 導入の「課題をつかむ」は、既習事項を活用して○×を付けたり、「理由を2つ考えてみよう」など具体的に示されている。「学習のまとめ」や「章のまとめ」が問題形式になっており、学習して得た知識を最後に再確認できるよう構成されている。</p> <p>② 「学習のまとめ」には生活に照らし合わせて話し合う内容があり、自分の考えをまとめて表現する場面が設けられている。「章のまとめ」では「思考・判断・表現」「学びに向かつて」という問題が取り上げられ、章全体で学んだ知識を活用して、自分の考えを記述する欄が設けられている。</p> <p>③ Q&A 健康相談コーナーやリラクセーションの方法などが紹介されている。読みものに加え、自分の健康や生活を振り返ることができるよう章末の資料が設定されており、記入して生活を振り返ったり、ロールプレイングで練習したりする内容が紹介されている。</p> <p>④ 小単元のまとめとして、学習内容を確認したり、日常生活に生かしたりする「学習のまとめ」が設けられている。「コラム」、「事例」では本文に関連した読みもの資料、「保健の窓」、「体育の窓」では自分ならどうするかを考えてみる内容が紹介されている。</p> <p>⑤ 巻頭では「平和の祭典」としてオリンピック・パラリンピックが写真とともに取り上げられ、「共に生きる」では、共に挑戦し、楽しみ、支え合おうとしている人たちが紹介されている。体育編3章の2、国際的なスポーツ大会の意義と役割では、「世界平和と国際親善」が資料と写真で紹介されている。</p>	<p>① 「学習の目標」から「課題をつかむ」の導入に入り、「まとめ・深める」で学習のまとめができる流れにより構成されている。「課題をつかむ」では表やイラストから考えさせるようになっており、問いが示されている。「章のまとめ」では、振り返りや確かめがチェックや穴埋めで示されている。</p> <p>② 「まとめ・深める」では、「考える」「説明する」「話し合う」など、「まとめ方・深め方」の方法が示されている。「章のまとめ」にも「生かそう」「生活への活用」のコーナーが示されており、学んだ知識を生活にどのように活用するのかについて記述する欄が設けられている。</p> <p>③ 章末資料には「探求しようよ!」というコーナーが設けられ、学んだ内容が生活の中でどのように生かされるか紹介されている。体育編の2章では、体力の必要性を災害の場面から考えるコーナーが設定され、避難生活中の体力の高め方などが紹介されている。</p> <p>④ 教え合い学び合う課題に「協働」、関連する学習内容へのガイドは「関連」、参考になるウェブサイトへのガイドは「リンク」のマークが付けられている。また、「自然災害から身を守るために」では、実生活につながる自然災害発生時の避難行動の仕方が紹介されている。</p> <p>⑤ 巻頭では「スポーツで世界を一つに」として、スポーツ大会や盛岡さんさ踊りなどが「World In Union」の歌詞と併せて紹介されている。「健康な生活と疾病の予防③」の章では「ノーベル生理学・医学賞受賞」の大村 智氏を取り上げられている。</p>
<p>① 体育編が前半、保健編が後半になるよう配列され、体育編は全9項目、保健編は全48項目で構成されている。「実習」の内容も1つの項目として取り上げられている。キーワードが太字で示されおり、資料を点線で囲み、背景が薄黄色で示されている。</p>	<p>① 体育編が前半、保健編が後半になるよう配列され、体育編は全9項目、保健編は全35項目で構成されている。巻頭に保健体育に関する施設の紹介などが10ページ設けられている。各章にページ数が色分けされている。見出しやキーワードは太字で表記されている。</p>

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

13

教科 技術・家庭

種目 技術・家庭（技術分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	1-3	A B	3 0 6
6	教図	new 技術・家庭 技術分野 明日を創造する	1-3	A 4 変型	3 0 2
		new 技術・家庭 技術分野 明日を創造する 技術ハンドブック	1-3	A 4 変型	4 2
9	開隆堂	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	1-3	A B	3 0 2

種目名 (技術・家庭 (技術分野))

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 材料と加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について、基礎基本の確実な定着を図るためにどのような内容が取り上げられ、創意工夫がなされているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、問題解決的な学習の中で、自ら考え、判断し、表現する力を育む技術分野の言語活動や、情報活用能力を育成する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるような題材や資料等がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 技術と社会や環境との関わりについて理解を深めるため、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる技術の内容がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 学習の見通しを持てるよう各項目の始めに学習する内容が示されている。学習の目標やキーワードが分かりやすく示されている。写真を多く使って1つ1つの工程が説明されている「TECLab」が示されている。動画で作業の動作を確認できるQRコードが示されている。</p> <p>② 問題解決のプロセスが5段階で構成されている。問題解決の過程で思考・判断・表現する例として、言葉でまとめたり、図で表現したりする「問題解決カード」が示されている。また、フィッシュボーンや5W1Hなどの思考ツールが紹介されている。第4編で76ページこわたって、「情報の技術」が設定されている。</p> <p>③ 各項目に「考えてみよう」「調べてみよう」などの学習の始めにできる簡単な活動例が設けられている。学習を深めたり、補充的な学習をしたりするために「資料」の欄や「技術のとびら」のページが設けられている。</p> <p>④ 各編のまとめの章では、安全性や経済性、環境への負荷の面から技術の最適化やこれからの技術について考えることができるよう構成されている。関連する技術・家庭科の他のページや、他教科、小学校との関連について、リンクが示されている。</p> <p>⑤ 我が国の伝統や文化に関わる内容は「伝統文化」マークを用いて紹介されている。「技術の匠」の欄や巻末の「学んだことを社会に生かす」では、対話的な学びが得られるよう社会で活躍している技術者の言葉が紹介されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量 使用上の便宜等</p>	<p>① 内容の構成・配列、全体の分量及びその配分や表記、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 各編ともに、「技術の原理・法則と仕組みの理解」「技術による問題解決」「技術を評価し、選択、管理・運用、改良、応用について考える」の順で、1編から3編は3章、4編は4章で構成されている。巻頭には技術の見方・考え方や最適化についての紹介ページ、巻末には統合的な問題解決についての資料や、プログラミング手帳などが掲載されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	6 教図 New技術・家庭 技術分野 明日を創造する
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 材料と加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術について、基礎基本の確実な定着を図るためどのような内容が取り上げられ、創意工夫がなされているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、問題解決的な学習の中で、自ら考え、判断し、表現する力を育む技術分野の言語活動や、情報活用能力を育成する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補足的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるような題材や資料等がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 技術と社会や環境との関わりについて理解を深めるため、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる技術の内容がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 各項目の冒頭に「めあて」「キーワード」が示され、「見つける」「学ぶ」「ふり返る」の3段階で構成されている。各編の冒頭に簡単な題材例が示され、道具の名前や使い方を身に付け実習に取り組むよう設定されている。別冊のハンドブックに基本技能についての説明が写真を用いて掲載されている。</p> <p>② 問題の発見からまとめまでを4つのステップで取り組む流れで構成されている。「やってみよう」では、「構成をまとめる」や「グループでの発表の例」「先輩からのアドバイス」が示されている。巻末には内容ごとに設計計画表が添付されている。第D編で84ページにわたって、「情報の技術」が設定されている。</p> <p>③ 「もっと知ろう」では発展的な内容についての題材や資料が枠囲みで示されている。「やってみよう」ではネット依存度チェック表など簡単な学習の発展例や、家庭での自主的な学習が促される例が示されている。</p> <p>④ 実生活に生かす場面が写真とともに紹介され、環境への配慮について「環境」マークが付されている。編末のまとめに、各編で扱う技術の役割について、生活、産業、資源や環境の側面からプラスやマイナス面を考える活動が示されている。</p> <p>⑤ 各編の冒頭に、「各技術の発展例」が写真とともに紹介されている。我が国や郷土の伝統・文化に関わる内容が、「スゴ技」「技ビト」などの欄に「伝統文化」マークを用いて示されている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容の構成・配列、全体の分量及びその配分や表記、目次、索引、凡例、諸表その他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 各編ともに、「つくって学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」の順で、A編からC編は3章、D編は4章、E編は1章で構成されている。E編「夢をかなえる技術」では既習事項を組み合わせ問題解決する例が示されている。別冊として基礎技能をまとめた「技術ハンドブック」が付属している。</p>

9 開隆堂 技術・家庭 技術分野
テクノロジーに希望をのせて

- ① 各項目の冒頭に学習の目標が示されている。作業内容について作業目線の拡大写真や、作業方法の写真などを使用して詳しく説明されている。「実験」では、学習の参考となる資実験や観察が掲載されている。また、動画で作業の動作を確認することができるQRコードが付されている。
 - ② 問題の発見から評価・改善までの問題解決の流れがPDCAサイクルで紹介されている。言語活動や情報活用の場面では「話し合ってみよう」が設けられ、問題解決の過程での工夫や、安全性や経済性などの様々な視点から考えることができるよう構成されている。第D編で72ページにわたって、「情報の技術」が設定されている。
 - ③ 各単元の冒頭に「調べてみよう」「考えてみよう」が設けられ、生活や社会の中の身近な技術が写真で紹介されている。「ふり返り」で学習内容を確認できる構成になっている。「参考」の欄に補充的な学習や発展的な学習が示されている。
 - ④ 生活や社会を支える技術が、各編の冒頭にイラストや写真で紹介され、他教科や小学校との関わりや、探究的な内容を示すマークが付されている。技術を比較・評価する際にトレードオフの関係になっている内容にマークが付されている。
 - ⑤ 各編の扉ページに、代表的な「技術の歴史」が年表と写真で紹介されており、世界の技術と日本の技術が色分けして掲載されている。巻末の資料として、「日本各地の伝統的な技・材料・工芸 Map」が掲載されている。
- ① 各編ともに、「知識や技能を身につける」「問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する」「学習したことを社会に生かす」の順で、4編3章によって構成されている。内容Dの実習例では統合的な実習例についても掲載されている。巻頭では、技術の見方・考え方について、巻末にプログラミングなど、情報に関する資料が掲載されている。

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

14

教科 技術・家庭

種目 技術・家庭（家庭分野）

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	1-3	A B	306
6	教図	New 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する	1-3	A4変型	308
9	開隆堂	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	1-3	A B	302

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して
(1) 内容の特徴・表現	<p>① 生活の自立に必要な基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、問題解決的な学習の中で、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動や情報活用能力を育成する活動に関する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるような内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や家庭や地域における生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 学習の定着の確認ができるように各編の終わりに「学習のまとめ」が設けられている。生活の自立に必要な被服や調理の基礎基本の知識技能の確実な定着を図ることができるよう、何度でも確認できる「いつも確かめよう」のページが設けられている。</p> <p>② 問題解決的な学習の中で、生徒自ら進めることができるようにガイダンスに問題を解決する道筋や「生活の課題と実践」のページの中に「課題の決め方」や言語活動の充実を図る「まとめと発表の仕方」が示されている。情報活用能力を育成するための思考ツールの活用例が掲載されている。</p> <p>③ 生徒が学習内容に取り組むきっかけとなる「考えてみよう」や「調べてみよう」が設定され、学習内容に関連した動画視聴やWebページの閲覧ができるよう巻末にDマークコンテンツ一覧が掲載されている。発展的な学習として学習に関連した職業の方のアドバイス「プロに聞く」が設けられている。</p> <p>④ 巻末に技術分野や他教科とのつながりがわかるような写真や他教科の分野を記載した「深まる、広がる家庭分野の学習」のページが設けられている。生活の場面での学びの活用が具体的にイメージしやすいように「生活の課題と実践」のページにいろいろな例示が掲載されている。</p> <p>⑤ 日本の伝統・文化の尊重や異文化理解が深まるように日本の地域や海外の衣食住についての写真が多く取り入れられている。国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うためユニセフの活動やフェアトレードなどについて掲載されている。日本や海外の話題が「せいかつメモ」で紹介されている。</p>
(2) 構成・配列及び分量 使用上の便宜等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 内容は、学習指導要領の内容B、C、Aの順での5編で構成されている。各編「導入」、「基本ページ」、「学習のまとめ」の順で構成されている。生活で使えるように巻末に切り取りができる「防災・減災手帳」が設けられている。生徒の活動している様子の写真やイラストが多く掲載されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	6 教 図 New 技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する
(1) 内 容 の 特 徴 ・ 表 現	<p>① 生活の自立に必要な基礎基本の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、問題解決的な学習の中で、自ら考え、判断し、表現する力を育む言語活動や情報活用能力を育成する活動に関する教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるような内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や家庭や地域における生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができる教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 生活の中での自分自身の自立度を確認できるように、章のはじめに「自立度チェック」が設けられ、指導内容ごとにめあてに対する自分の学びを書かせる欄が「ふり返る」に設定されている。知識・技能の基礎的な学びが確認できるように章末の「学習の振り返り」に「確認しよう」が設けられている。</p> <p>② 考え、判断し、表現する力を育む言語活動のきっかけとなるように、話し合いや発表の視点を示した「話し合ってみよう」や「発表してみよう」が設定されている。衣生活の製作では、生徒が練習作品を応用し作品製作ができるように、いろいろな実習例や「私のアレンジ」が掲載されている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組むことができるように「調べてみよう」や「考えてみよう」が設けられている。「考えてみよう」の一例に献立作成が実感を持ってできるように料理シールが用意されている。学習内容をさらに深めるための資料は「発展」、「参考」、「資料」のマークで表されている。</p> <p>④ 他教科との関連が分かりやすいように「リンク」マークが示されている。生活の場面の中での学びのきっかけとなるように学習に関連した中学生のイラストと会話が「見つめる」の欄に掲載されている。探究的な活動につながるように、章末に学びを生かした課題例や課題設定の例が掲載されている。</p> <p>⑤ 日本の伝統と文化について理解を深めるために巻頭に「年中行事と私たちの暮らし」や、他国の文化の理解を深めるために「世界の衣食住」が数多く写真を使い掲載されている。C編では、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう発展途上国における事例が取り上げられている。</p>
(2) 構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 使 用 上 の 便 宜 等	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 学習指導要領の内容A、B、Cと同様に配列されており、A、B、C編に分かれ、10章により構成されている。各章は、「導入」、「やってみよう」、「学びを生かそう」、「章末のまとめ」の順で構成されており、左上にインデックスタブを用いて分かりやすく示されている。</p>

種目名 (技術・家庭 (家庭分野))

9 開隆堂 技術・家庭 家庭分野

生活の土台 自立と共生

- ① 学習内容の定着を図るために、終末部分に自分の言葉を書き込む「ふり返り」が設定されている。調理の実際において、科学的な根拠に基づいた基本的な知識・技能が図られるように「調理Q&A」が設けられている。被服の技能の定着が図られるように「製作の基礎基本」のページが設けられている。
 - ② 対話的な学びや言語活動を取り入れた学習ができるように「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「発表しよう」が設けられている。「生活の課題と実践」では表現する力を育むことができるようまとめ方の例や、学習内容に関する課題例が掲載されている。
 - ③ 主体的に学習に取り組むことができるように、導入課題として生徒が答えたいような問いや、学習内容の初めに生活場面や実物大の写真を効果的に使う「わたしの興味・関心」のページが設けられている。学習に関連した情報が得られるように「豆知識」の欄が示されている。
 - ④ 他教科との関連を分かりやすくするために、見開きページ右上の特定の位置に「他教科」のマークが設けられている。実生活の場面への活用や、探究的な活動のきっかけとなる「生活に生かそう」を学習のまとめりごとに「ふり返り」の後に設けている。
 - ⑤ 巻末に日本の伝統文化や世界の衣食住が写真を使い見開きで示されている。多くの国々が環境に配慮していることが分かるようにC消費生活・環境のページの右上に世界の「環境マーク」が掲載され、国際的な取り組みやSDGsが紹介されている。
- ① 学習指導要領の内容A、B、Cと同様の配列となっている。生徒が興味関心を持ちやすく見やすいように実物大の食品や手形などの写真が掲載されている。表紙、巻頭・巻末などには多様な人々が平等な関係で共生できる社会を表している絵や写真が多く掲載されている。

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

15

教科 外国語

種目 英語

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	NEW HORIZON English Course 1	1	A4	174
		NEW HORIZON English Course 2	2	A4	166
		NEW HORIZON English Course 3	3	A4	162
9	開隆堂	SUNSHINE ENGLISH COURSE 1	1	AB	172
		SUNSHINE ENGLISH COURSE 2	2	AB	172
		SUNSHINE ENGLISH COURSE 3	3	AB	164
15	三省堂	NEW CROWN 1 English Series	1	AB	184
		NEW CROWN 2 English Series	2	AB	178
		NEW CROWN 3 English Series	3	AB	186
17	教出	ONE WORLD English Course 1	1	AB	176
		ONE WORLD English Course 2	2	AB	178
		ONE WORLD English Course 3	3	AB	178
38	光村	Here We Go! ENGLISH COURSE 1	1	AB	190
		Here We Go! ENGLISH COURSE 2	2	AB	190
		Here We Go! ENGLISH COURSE 3	3	AB	190
61	啓林館	BLUE SKY English Course 1	1	AB	158
		BLUE SKY English Course 2	2	AB	166
		BLUE SKY English Course 3	3	AB	150

種目名 (英語)

項目	観 点 の 具 体	2 東書 NEW HORIZON
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 言語に対する理解を図り、コミュニケーションに必要な基礎基本的な言語材料の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する能力を身に付けさせるために、言語活動や情報活用能力を育む活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるように、教材や学習活動が取り上げられているか。</p> <p>④ 英語の実践的運用能力を身に付けさせるために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 第1学年では、「Enjoy Communication」に小学校での表現の復習が掲載されている。「Preview」で学ぶ表現を想像させ、「Key Sentence」で新出文法を学び、「Practice」でその使い方を練習し、続く「Mini Activity」で自己表現活動を含む「Listen、Speak&Write」が設定されている。</p> <p>② 「Unit Activity」では、自分の関心のある事柄や考えなどを表現することができるように、5領域を統合的に扱う活動が設定されている。第2学年からは、表やグラフの内容を読み取り、その内容を表現することができるように、訪日外国人人数など、様々なグラフが扱われている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるようパートごとにQRコードが掲載され、「学び方コーナー」では辞書の使い方や学習のコツなどが紹介されている。復習ができるように「Grammar for Communication」には文構造がまとめられている。巻末には発展的読み物の「Optional Reading」が掲載されている。</p> <p>④ 防災、福祉など現代社会に直結するものや、他教科を英語で学ぶ内容が取り上げられている。「Stage Activity」では、日本文化を紹介したり、クラスで人気のあるものや地図を使って調べたことを発表したりする活動が設定されている。</p> <p>⑤ 俳句や落語、伝統工芸などの日本の文化や他国の文化や生活習慣、世界遺産が紹介されている。また、日本の伝統工芸や、郷土の文化の魅力、日本でのもてなしプランの紹介活動などが設定されている。国際協力の題材も取り上げられている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量 使用上の便宜等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 本課数は、学年順にユニット0を含み12、8、7である。巻末の資料編には、小学校の外国語科で学習した主な単語の一覧があり、巻末には、全学年のCAN-DOリストや高校の学習目標が掲載されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	9 開隆堂 SUNSHINE ENGLISH COURSE
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 言語に対する理解を図り、コミュニケーションに必要な基礎基本的な言語材料の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する能力を身に付けさせるために、言語活動や情報活用能力を育む活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるように、教材や学習活動が取り上げられているか。</p> <p>④ 英語の実践的運用能力を身に付けさせるために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 「とびら」で目標を確認し、「Scenes」で新出文法を学習し、「Listen, Speak & Write」で繰り返し練習する活動が設定されている。ある程度の分量の「Think」で読むこと、「Retell」で本文内容の要点をとらえ、再現すること、「Interact」で4技能5領域を統合した活動が設定されている。</p> <p>② 「Interact」では、身近な事についてのクイズなど、ゲーム感覚でやり取りし、また自分の関心のある事柄について発表することができるように多くのテーマが設定されている。「Power-up」では、聞いたり読んだりして内容を理解した後、状況に応じた活動が設定されている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるようパートごとにQRコードが掲載されている。全学年に、英和辞典の仕組みや活用方法が掲載されている。復習ができるように、文法のまとめの「英語のしくみ」や音読練習のチェック欄が掲載されている。巻末には発展的読み物の「Further Reading」が掲載されている。</p> <p>④ 環境問題、人権問題、AI など現代社会に直結することや、他教科に関連する題材が取り上げられている。「Our Project」では、インタビューやわが町のPR動画作成など身近な題材を取り上げ、探究し、自己表現する活動が取り入れられている。</p> <p>⑤ 書道や年中行事などの日本文化や世界の食文化の比較が取り上げられている。また、国際貢献の観点から、杉原千畝やマララなど、国際平和や国際協力に寄与した人々が紹介され、他国との友好関係を考える活動が設定されている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量 使用上の便宜等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 本課数は、学年順に10、8、7で、本編は「とびら」「Scene」「Think」「Retell」「Interact」「英語のしくみ」で構成されている。巻末には、技能ごと学年ごとのCAN-DOリスト、切り離して活用できる付録の「アクションカード」掲載されている。</p>

16 三省堂 NEW CROWN	17 教出 ONE WORLD
<p>① Get では、「本文」で新出文法に触れ、「POINT」で新出文法を確認し、「Drill」や「Listen、Speak/Talk&Write」により短い文脈の中で練習する活動が繰り返し設定されている。続いて、「USE」の中で、まとまった分量の読むこと、話すこと、書くことの活動が設定されている。</p> <p>② 「Take Action！」では、レストランでの会話やクラスでの話し合いなど、日常場面が取り上げられ、状況に応じて自分の考えを話したり、相手からの質問に答えたりするロールプレイ活動が設定されている。即興でのやり取りが継続できるように、様々な表現例が示されている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるようパートごとにQRコードが掲載されている。「For Self-study」では、学習のコツなどが紹介されている。Lessonごとに「文法のまとめ」があり、各自で授業の振り返りや復習ができるよう設定されている。巻末には発展的読み物の「Further Reading」が掲載されている。</p> <p>④ バラスポーツや平和、人種差別問題など、幅広い題材が取り上げられている。理科と関連づけた環境問題などが紹介されている。「Project」では、我が町紹介や、ディスカッションなどの活動が複数の学年で取り上げられている。</p> <p>⑤ 落語や和食などの日本の文化や他国の歴史や文化が取り上げられている。また、おすすめの日本語を紹介する活動が設定されている。外国語を使って働く人の記事など、国際協力の題材も取り上げられている。</p>	<p>① Part①～③では、「本文」から新出文法を想像し、「Key Sentence」で新出文法が「Notes」の文法説明とともに掲載されている。「Tool Kit」や、「Listen、Think&Try」で繰り返し練習する活動が設定されている。続いて「Review」、「Task」で4技能5領域を統合した活動が設定されている。</p> <p>② 「Activities Plus」では、即興的なやり取りができるように対話の質問例やスピーチのトピックが示されている。第2学年からの「Tips」では、関心のある事柄について自分の考えを伝えたり、ディスカッションしたりするなどの5領域の活動が、それぞれのコツとともに設定されている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるよう、パートごとにQRコードがあり、Lessonごとに文構造のまとめの「Grammar」と「振り返り」が掲載されている。学習方法のコツを示した「How to study」や、音読練習のチェック欄が設定されている。巻末には発展的読み物「Further Reading」が掲載されている。</p> <p>④ 環境問題、職業観、福祉など幅広い題材が取り上げられている。食品ロスやピクトグラムなどの現代的なテーマも紹介されている。「Useful Expression」では、飲食店や校内案内など、日常生活で使われる身近な表現や会話が紹介されている。</p> <p>⑤ 日本と他国の文化について、名所や学校生活など幅広い題材が取り上げられている。また、世界で活躍する日本人や貧困問題、日本の中学生の平和スピーチも紹介されている。日本の名所や文化を紹介する活動が設定されている。</p>
<p>① 本課数は、学年順に8、7、7である。巻末には、該当学年のCAN-DOリストが掲載されている。付録として、本課で活用するロールプレイシートや復習で活用できる「Audio Scripts」が掲載されている。</p>	<p>① 本課数は、学年順に9、9、7である。巻頭に「まなびリンク」のQRコードが掲載され、第1学年に「すごろくボード」、全学年に復習用赤シートが綴じられ、巻末に全学年のCan-Do自己チェックリストや活動用カードが掲載されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	3 8 光村 Here We Go !
<p>(1)</p> <p>内 容 の 特 徴 ・ 表 現</p>	<p>① 言語に対する理解を図り、コミュニケーションに必要な基礎的な言語材料の確実な定着を図るために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p> <p>② 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する能力を身に付けさせるために、言語活動や情報活用能力を育む活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、補充的な学習や発展的な学習、家庭での自主的な学習が促されるように、教材や学習活動が取り上げられているか。</p> <p>④ 英語の実践的運用能力を身に付けさせるために、他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や実生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、教材や学習活動がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① Part 1～3では、「本文」から新出文法を想像し、「Listen、Speak、Write」の中で、新出文法の使い方を練習する活動が繰り返し設定されている。そして、「基本文」で新出文法を確認する。続いて「Goal」にまとめた分量の新出文法を含んだ4技能5領域を統合した活動が設定されている。</p> <p>② 帯教材の「Let's Talk」では、自分や相手のことについて簡単な句や文を用いて即興的なやり取りができるように活動が設定されている。「Story Retelling」では、既習の内容をイラストとキーワードをもとに、自分の言葉で伝えることができるような活動が設定されている。</p> <p>③ 各自で学習が進められるようパートごとにQRコードが掲載され、「英語の学び方ガイド」や「Your Coach」には学習のコツが掲載されている。復習ができるように「Active Grammar」には既習の文構造がまとめられている。巻末には発展的読み物の「Let's Read More」が掲載されている。</p> <p>④ 環境問題、AIなど現代社会に直結する多様な題材が取り上げられている。「You Can Do it!」では、自己紹介、職業診断チャート、ディスカッションなどが取り上げられている。グラフなどを使ったプレゼンテーションの方法が掲載されている。</p> <p>⑤ 日本や他国の文化が、登場人物の体験を通して身近な題材で紹介されている。また、郷土の観光プラン作りや日本文化を発信する活動が設定されている。世界平和に尽力する日本人など、国際協力の題材が取り上げられている。</p>
<p>(2)</p> <p>構 成 ・ 配 列 及 び 分 量 、 使 用 上 の 便 宜 等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 本課数は、全学年8である。巻末付録に、該当学年のCAN-DO Listが技能ごとに掲載されている。裏表紙に、参考資料を紹介する保護者用QRコードが掲載されている。帯教材には、教科書とは異なるサイズや材質が使用されている。</p>

種目名 (英語)

61 啓林館 BLUE SKY

- ① Part①～③では、「Get Ready (Read/Listen)」で新出文法や新出語句を確認し、「Practice」でその使い方を練習し、「Use」で自己表現する活動が繰り返し設定されている。第2・3学年では、続いて「Read & Think」で読むことを、「Express Yourself」で自己表現活動がUnitごとに設定されている。
 - ② 「Let's Talk」や「Let's Listen」では、日常生活の対話を練習し、応用的に表現することができるように活動が設定されている。「Express Yourself」では、社会的な話題などに関して自分の意見を発表することができるように、5領域を統合的に扱う様々な活動が設定されている。
 - ③ 各自で学習が進められるようパートごとにQRコードが掲載されている。各パートに「Target のまとめ」があり、授業の振り返りや復習ができるよう設定されている。第3学年では発展的な学習として「Further Study」に、ディスカッションや中学校生活の作文を書く活動が設定されている。
 - ④ 地域の活性化、珍しい動物の生態、防災問題など幅広い題材が取り上げられている。「Project」では、日記や学校紹介のホームページなどを取り上げ、いくつかのユニットで学習したことを生かして自己表現する活動が設定されている。
 - ⑤ 郷土マスコットやマンガなど身近な題材が取り上げられるとともに、郷土の名所や行事を紹介する活動が設定されている。24の国・地域の生活習慣や文化も取り上げられている。世界平和を願う語り部の活動も紹介されている。
- ① 本課数は、学年順に10、8、6である。全学年の付録に第3学年時でのCAN-DOリストが掲載されている。裏表紙に、教師・保護者向けの参考情報用QRコードが掲載されている。「Word Box」に本課と関連した単語が掲載されている。

「令和3年度使用義務教育諸学校（中学校）の教科用図書（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）研究資料」

16

教科 道徳

種目 道徳

〈文部科学大臣の検定を経た教科用図書一覧〉

発行者		書名	使用 学年	判型	ページ数
番号	略称				
2	東書	新訂 新しい道徳 1	1	A B	1 9 6
		新訂 新しい道徳 2	2	A B	2 0 4
		新訂 新しい道徳 3	3	A B	2 0 4
17	教出	中学道徳 1 とびだそう未来へ	1	B 5	2 1 8
		中学道徳 2 とびだそう未来へ	2	B 5	2 0 2
		中学道徳 3 とびだそう未来へ	3	B 5	2 0 2
38	光村	中学道徳 1 きみが いちばん ひかるとき	1	B 5	1 9 7
		中学道徳 2 きみが いちばん ひかるとき	2	B 5	2 0 5
		中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき	3	B 5	2 0 5
116	日文	中学道徳 あすを生きる 1	1	B 5	1 9 8
		中学道徳 あすを生きる 1 道徳ノート		B 5	4 2
		中学道徳 あすを生きる 2	2	B 5	1 9 8
		中学道徳 あすを生きる 2 道徳ノート		B 5	4 2
		中学道徳 あすを生きる 3	3	B 5	1 9 8
		中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート		B 5	4 2
224	学研	新・中学生の道徳 明日への扉 1	1	A B	1 8 6
		新・中学生の道徳 明日への扉 2	2	A B	1 9 8
		新・中学生の道徳 明日への扉 3	3	A B	1 9 8
232	廣あ かつ き	中学生の道徳 自分を見つめる 1	1	A B	1 8 6
		中学生の道徳ノート 自分を見つめる 1		A B	5 2
		中学生の道徳 自分を考える 2	2	A B	1 7 0
		中学生の道徳ノート 自分を考える 2		A B	5 2
		中学生の道徳 自分をのばす 3	3	A B	1 6 6
		中学生の道徳ノート 自分をのばす 3		A B	5 2
233	日科	道徳 中学校 1 生き方から学ぶ	1	B 5	1 9 4
		道徳 中学校 2 生き方を見つめる	2	B 5	1 9 4
		道徳 中学校 3 生き方を創造する	3	B 5	1 9 4

項目	観 点 の 具 体	2 東書 新しい道徳
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 道徳的価値の理解を図るために、発達段階を踏まえた内容の充実や創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>② 自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、多面的・多角的に考える力を育む言語活動や情報モラル等現代的な課題に関わる題材がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等の多様な学習方法がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や家庭や地域における生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統、文化、人物等に関わる題材や、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に関わる題材がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 題材の最初に主題、題材末に問いが示されている。「向上心、個性の伸長」にかかわり発達段階を踏まえて、自分の短所に目を向ける題材、他者の良い所から自分の良さにも気付く題材、他者の生き方を通して自分の生き方を考える題材が取り上げられている。</p> <p>② 前の内容を深め、自分の視野を広げて考える手がかりとして「Plus (プラス)」の頁が設けられている。自分の考え方や感じ方を書き込む欄として、「つぶやき」のコーナーが各題材に設けられている。「情報モラルと友情」という観点から身近な情報モラルを考えさせる題材と、いじめの問題に関して、イラスト、読み物、漫画、コラムなどを組み合わせた題材が各学年で取り上げられている。</p> <p>③ 読み物題材の読後、学習内容を自分のこととして捉えるために、グループでの役割演技をするなど、体験的な学習に取り組む「Action！」の頁が設けられている。</p> <p>④ 学校行事や地域の活動、ボランティア活動などに関連した題材が各学年で示されている。また、題材で学習した内容を広げるためのコラムが複数設けられている。題材名の下に関連する教科やデジタルコンテンツのマークが付されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、宮島の杓子、秋田の竿燈祭、隅田川の花火と灯ろう流しなどが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、フィリピンの山岳民族、世界の子どもたちの写真、広島を訪れたオランダの老婦人などが取り上げられている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量、使用上の便宜等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 年間 35 時間分の題材として、28 題材と 5 付録題材で構成されている。全学年で「いじめのない世界へ」「いのちを考える」のテーマで複数の題材を関連付け、1つのまとまりとして示されている。巻末に「郷土資料」として、各都道府県の人物や伝統・文化等の紹介、気持ちを視覚化する「心情円」、話し合い活動のための「ホワイトボード用紙」が示されている。</p>

項目	観 点 の 具 体	17 教出 中学道徳
内容の特徴・表現	① 道徳的価値の理解を図るために、発達段階を踏まえた内容の充実や創意工夫がどのようになされているか。 ② 自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、多面的・多角的に考える力を育む言語活動や情報モラル等現代的な課題に関わる題材がどのように取り上げられているか。 ③ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等の多様な学習方法がどのように取り上げられているか。 ④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や家庭や地域における生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。 ⑤ 我が国や郷土の伝統、文化、人物等に関わる題材や、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に関わる題材がどのように取り上げられているか。	① 題材を通して考える問いが題材名の下と題材末に示されている。「向上心、個性の伸長」に関わり発達段階を踏まえて、自分の良さを伸ばし夢に近づくために大切なことを考える題材、生きがいのある人生を考える題材、他者の生き方を通して自分らしい生き方考える題材が取り上げられている。 ② どの題材末にも、考えを広げ深める手がかりとして「学びの道しるべ」のコーナーが設けられている。各学年の巻頭にも、考え話し合い、学びを深めるための道徳の学習の進め方が6つの視点で示されている。生徒自身の考えや根拠を問い、深く考えさせるための重点テーマが設けられ、生命の尊さやいじめについて考える題材、情報機器の使い方を考える情報モラルの題材が各学年で取り上げられている。 ③ 問題解決的な学習の題材や、道徳的諸価値を学習した後に体験的な学習に取り組むことができる「やってみよう」の頁が設定され、多様な学習方法が取り上げられている。 ④ 題材末に設けられている「学びの道しるべ」の中に、日常生活に関連付けられる質問が見られる。また、題材末に専用サイトから学習に役立つ情報を見ることができる「まなびリンク」が付されている。 ⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、落語家・桂米朝、狂言師・野村萬斎、棋士・藤井聡太などが取り上げられている。また、国際理解や国際平和に関わる題材として、国連難民高等弁務官・緒方貞子、オバマ大統領の広島訪問、マザー・テレサなどが取り上げられている。
構成・配列及び分量、使用上の便宜等	① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。	① 年間 35 時間分の題材として、30 題材と 5 補充題材が取り上げられている。全学年を通して「いじめに立ち向かう」「生命の尊さ」のテーマで複数の題材が連続で示されている。巻頭に「道徳科で学びを深めるために」で学習の流れが示され、巻末には内容項目順に道徳の学びを記録する欄、各都道府県にゆかりのある人物とその言葉の資料が示されている。

38 光村 中学道徳	116 日文 中学道徳
<p>① 題材の最初に内容項目、題材末に主題と問いが示されている。「向上心、個性の伸長」にかかわり発達段階を踏まえて、自分の良さを伸ばすために大切なことを考える題材、他者が悩みや葛藤を乗り越えた姿から自分の生き方を考える題材、生命の大切さについて考える題材が取り上げられている。</p> <p>② 対話を通して多様な見方ができるように『「他者」との対話』『「自分」との対話』の頁が巻頭に設定されている。多面的・多角的に考えを深めるため、題材末にテーマに迫るための「考えよう」や、別の立場や視点から考えるための「見方を変えて」の問いが示されている。情報モラルに関する題材やいじめの問題を考える題材とコラムが、各学年で取り上げられている。</p> <p>③ テーマについて自分のこととして考える「なんだろう なんだろう」、話し合い活動を通して学びを深める「深めたいむ」、役割演技の場面、問題解決的な題材が設けられている。</p> <p>④ 学校行事や地域の活動、ボランティア活動等に関連した題材が各学年で示されている。各題材に他教科や日常生活との関わり等を示す「つなげよう」が設けられている。参考となる資料の掲載を示すQRコードが題材名の下に付されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、日本の米づくり、和風建築と障子、ゆかた・着物などが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、異文化の人との共生、アンネ・フランクのバラ、アフリカの日本人義足技師などが取り上げられている。</p>	<p>① 題材の最初に主題、題材末には問いが示されている。「向上心、個性の伸長」にかかわり発達段階を踏まえて、自分の良さを生かして生きるために大切なことを考える題材、人間が見せる苦悩や強さ、気高さを見つけ、人間としての生き方を考える題材が取り上げられている。</p> <p>② 自分の経験と照らし合わせ、考えや視野を広げる手がかりとして、「プラットフォーム」の頁が設けられている。題材末には、考えを広げて多様な見方を促すために「考えてみよう」の問いが示されている。いじめと向き合う題材が複数取り上げられ、話し合いを通して考えを広げる活動が示されている。また、情報モラルに関する題材とコラムが各学年で取り上げられている。</p> <p>③ 題材に関連する役割演技や疑似体験をしたり、問題について議論をしたりすることを通して考えを深める「学習の進め方」の頁が設けられている。</p> <p>④ 学習内容を他の教科や活動とつなげ、考えや視野を広げるコラムとして「プラットフォーム」の頁が設けられている。専用サイトに参考となる資料の掲載を示すPCマークが題材名の下に付されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、ふるしき包み、奈良筆、震災から復活した郷土芸能などが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、ブータンの農業振興に努めた西岡京治、ノーベル平和賞のマララ・ユスフザイなどが取り上げられている。</p>
<p>① 年間 35 時間分の題材として、31 題材と 4 付録題材が取り上げられている。題材が3つのシーズンに分かれ、各シーズンはテーマを持ったユニットに分かれている。巻末には各シーズンの振り返りを記入する「学びの記録」が設定されている。全学年共通で「共生」「環境」などの4つのテーマのコラムや巻末に日本各地の郷土の文化や人物が紹介されている。</p>	<p>① 年間 35 時間分の題材として、35 題材が取り上げられている。教科書と別冊「道徳ノート」で構成されている。巻頭に「道徳科で学ぶこと」「道徳科での学び方」が示されている。全学年を通して「いじめと向き合う」「よりよい社会と私たち」のテーマで複数題材が連続で示されている。別冊「道徳ノート」は教科書の題材ごとに1頁で構成されている。</p>

種目名 (道徳)

項目	観 点 の 具 体	224 学研 中学生の道徳
<p>(1)</p> <p>内容の特徴・表現</p>	<p>① 道徳的価値の理解を図るために、発達段階を踏まえた内容の充実や創意工夫がどのようになされているか。</p> <p>② 自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、多面的・多角的に考える力を育む言語活動や情報モラル等現代的な課題に関わる題材がどのように取り上げられているか。</p> <p>③ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等の多様な学習方法がどのように取り上げられているか。</p> <p>④ 他教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連や家庭や地域における生活の場面への活用、探究的な活動の内容がどのように取り上げられているか。</p> <p>⑤ 我が国や郷土の伝統、文化、人物等に関わる題材や、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に関わる題材がどのように取り上げられているか。</p>	<p>① 題材末に問いが示されている。「向上心、個性の伸長」にかかわり発達段階を踏まえて、自分の長所や好きなどを考える題材、夢を叶えるために大切なことを考える題材、他の人の生き方から学び、自分の生き方について考える題材が取り上げられている。</p> <p>② 巻頭に自分との関わりで多面的に考えさせる「考えを深める四つのステップ」が紹介され、題材末に考えを広げて多様な見方を促すための「考えよう」の問いが設けられている。命について様々な観点から考える題材が、第1学年では6題、第2学年では7題、第3学年では5題取り上げられている。現代的な課題に関わる読み物資料、漫画などを組み合わせた情報モラルの題材が各学年で取り上げられている。</p> <p>③ 教材の内容を自分と置き換えて考えたり、活動的な学習や、問題解決的な学習を行ったりできるように、「深めよう」の頁が各学年で複数回設けられている。</p> <p>④ 学校行事や部活動等、身近な題材が取り上げられている。また、題材に関連した資料等が「クローズアップ」「クローズアップ＋プラス」に掲載されている。題材名の下に専用サイトから関連する資料を得るためのQRマークが付されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、女性ねぶた師、白川郷、荒川五色桜などが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、嘉納治五郎のオリンピック招致、ウガンダでの国際協力、カンボジアの地雷撤去などが取り上げられている。</p>
<p>(2)</p> <p>構成・配列及び分量、使用上の便宜等</p>	<p>① 内容が系統的に構成され、学習を効果的に進めるために適切な配列であり、全体の分量及びその配分や表記が指導上適切であることや、表紙、目次、巻頭・巻末の資料、挿絵、写真、レイアウトその他使用上の便宜について、どのような特徴があるか。</p>	<p>① 年間35時間分の題材として、35題材が取り上げられている。巻末に学期ごとの振り返りを記入する「学びの記録」が示されている。全学年を通して「地球と地域の未来のために」「夢に向かって共に輝く」というテーマで、それぞれ2つずつの題材を連続して掲載し、一つのまとまりとして学習できるよう設定されている。</p>

232 廣あかつ 中学生の道徳	233 日科 道徳 中学校
<p>① 題材末に問いが示され、巻末に題材ごとの主題が示されている。「向上心、個性の伸長」にかかわり発達段階を踏まえて、自分の弱さを見つめ、自分らしさについて考える題材、自分の個性を輝かせるために心がけることを考える題材、向上心について考える題材が取り上げられている。</p> <p>② 各題材末に、学習の手がかりや考えを広げ深めることができるように「考える・話し合う」のコーナーが設けられている。情報モラルについて考える題材や、いじめを加害者や傍観者の立場から考える題材が各学年で取り上げられている。また、巻末には、情報モラル・いじめ・持続可能な社会を考えることなどの現代的な課題に関するコラムが各学年で取り上げられている。</p> <p>③ 題材末の「考える・話し合う」の中の「学習の手がかり」を参考にしながら、問題解決的な学習や、体験的な活動に取り組むことができる題材が各学年に配置されている。</p> <p>④ 題材末の「考える・話し合う」の中の「考えを広げる・深める」や、「道徳ノート」に各内容項目に関連したテーマでまとめられた頁が設けられている。題材名の下に専用サイトから情報を得られる「インターネット」のマークが付されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、被災地に石碑を建てる運動、中学生の防火用アップロード作戦、相馬野馬追復興などが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、中学生が考える国際協力、エルトゥール号遭難から続くトルコとの絆などが取り上げられている。</p>	<p>① 題材末には問いが示されている。「向上心、個性の伸長」にかかわり発達段階を踏まえて、自分の良さを伸ばすことを考える題材、自分の将来を見つめどう変わるべきかを考える題材、先哲の生き方から学び、自分の生き方について話し合う題材が取り上げられている。</p> <p>② 考えを深める問いとして、題材末に「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーが設けられている。また、多面的な考え方を促す頁として「届けたい言葉」「込められた想い」「考えてみよう」などが示されている。情報モラルでは、ネット・コミュニケーションを考える題材が各学年に掲載されている。また、いじめを直接扱った題材や間接的に考える題材が各学年で複数取り上げられている。</p> <p>③ 各学年の教科書には、問題解決的な学習や体験的な学習、議論するような学習に取り組むことができる題材が複数取り上げられている。</p> <p>④ 学習内容を他の教科や活動とつなげ、考えや視野を広げる頁として「もっと知りたい」が設けられている。また、各学年で日常生活に関連した学習活動を示した「話してみよう」などの頁が複数設定されている。</p> <p>⑤ 国や郷土の伝統や文化に関わる題材として、江戸のエコ生活、ウズベキスタンに劇場を建てた日本人捕虜、小泉八雲の見た日本などが取り上げられている。国際理解や国際平和に関わる題材として、台湾でダムづくりに貢献した八田與一、真珠湾に打ち上げた花火・白菊などが取り上げられている。</p>
<p>① 年間 35 時間分の題材として、35 題材が取り上げられている。教科書と別冊「道徳ノート」で構成されている。学年ごとに書名が「自分を見つける」「自分を考える」「自分をのびす」と変わっている。各題材の下には関連する別冊「道徳ノート」の頁が示されている。教科書は指導順に、道徳ノートは内容項目順に構成されている。</p>	<p>① 年間 35 時間分の題材として、37 題材が取り上げられている。学年ごとに書名が「生き方から学ぶ」「生き方を見つめる」「生き方を創造する」と変わっている。目次の題材番号が内容項目に対応し、内容項目順に指導順が配列してある。巻末に「心の成長の振り返り」、「道徳の授業の振り返り」「学習指導要領対応表」の頁が設定されている。</p>